



HELLO *life*

Create the NEW PUBLIC

人が輝き働くための公共をつくる

COMPANY PROFILE

名 称	NPO法人HELLOlife
設 立	平成20年12月25日
役員構成	代表理事 塩山 諒 Ryo Shioyama 理事 古市邦人 Kunihito Furuichi 箭野美里 Misato Yano 監事 烏野佳子 Yoshiko Karasuno
社員人数	36人
業務内容	社会課題解決に向けた公共づくり事業
所在地	〒550-0004大阪府大阪市西区靱本町1-16-14
アクセス	地下鉄四つ橋線または中央線「本町駅」 28番出口より徒歩5分
Tel	06-6147-3286

HELLOlife VISION

誰もが自分らしい働き方・生き方を
実現できる社会をつくる。

Create the NEW PUBLIC

HELLOlifeは、わたしたちの暮らしの中に潜む「働く」ということにまつわるさまざまな問題を事業を通じて解決し、その解決戦術をシステムとして社会に構築することをめざす組織です。

今の自分の仕事や働き方・暮らしに不安を抱えている。

就職活動やキャリアアップがうまくいかない。

採用活動や組織づくりに苦戦している。

個人や企業、行政があたりまえに持っている課題や悩みに対して、

その想いに寄り添い、最適なビジョンと変革のためのプランをつくり実行します。

そして、わたしたちが目指すのは実行したプランを全国に波及させ、

就業・雇用・教育の社会システムとして構築することです。

人のしあわせを実現する社会の発展は、個人が輝き働くことが要だと考えます。

2008年、HELLOlifeの前身組織を設立し、就業や雇用・教育分野の施策に取り組んできました。

これまでもこれからもわたしたちは、ひとりの人生に向き合い、

あらゆるセクターの方々とともに一個人・一企業・一組織の課題解決にのぞみ、

これまでなかったモデルの実践と評価・普及をもって、個人が輝く公共の実現に寄与して参ります。

そして、HELLOlifeのビジョンである、

誰もが自分らしい働き方・生き方を実現できる社会をつくることをめざします。

個人が輝き働くための公共をつくる上で、わたしたちが基盤としている2つのポリシー。

このポリシーは、大阪本町に構える総合拠点「ハローライフ」を中心に、わたしたちが展開するすべての事業において基盤となっている信念であり、個人・企業・行政等のクライアントに期待され提供できる普遍的価値です。

1. ひとりの「人生」に向き合った価値を提供する。

わたしたちの仕事のフィールドは「働く」ことにまつわる就業・雇用等の領域ですが、「就職すること」「採用すること」への価値提供プロセスにおいて「その選択が、個人や企業の人生にとって最良かどうか」を最重要事項として扱います。個人がどのような人生を歩み、企業がどのような存在でありたいのか、ひとりの人間がよりよく生きるための本質に向き合い、その実現を阻んでいる課題に対し適切なビジョンとプランを示し実行します。

2. 時代のニーズに即した新しいソリューションの開拓者になる。

若者への住宅支援があたりまえになるかもしれない。新しい仕事をつくってもいい。企業が職業安定所をつくったっていい。お寺等の地域資源が人の就職をサポートしてもいい。「働くこと」にまつわるニーズや課題が複雑化し、人々が「ほんとうにいいもの」を探し求める中、就業システム・組織開発支援策の開発・価値拡充・刷新の可能性はとて大きいと感じています。人々の時代を生き抜く力を最大化できるよう、飽くなき挑戦を続け新しい公共をつくる開拓者になります。

個人・企業・行政がもつ課題に対し示すビジョン・プラン・マネジメント・評価・提言等、わたしたちの価値創造が行われる総合拠点が「ハローライフ」(大阪・本町)です。就業システム・組織開発支援等、ひとりの人生に向き合った課題解決プロセスを経て、個人が輝く公共づくり・既存施策の価値拡充・刷新を実現するための研究と実践を日々行っています。



組織タグライン「Create the NEW PUBLIC」の体现のため、わたしたちは「新規施策の創造」「既存施策の価値拡充・刷新」の、大きく2つのアクションを起こしています。各アクションの2017~2019年度の代表事業を紹介します。

1. 新規施策の創造

/ 公営住宅活用型就業支援プロジェクト MODEL HOUSE



2017年に大阪府と公益財団法人日本財団とタッグを組んで実施をスタートさせた「公営住宅活用型 就業支援プロジェクト MODELHOUSE」。大阪四條畷市にある清滝住宅で、若者に就業支援・住宅支援・コミュニティ支援を提供してきました。2019年からは、大阪府・日本財団・NPO法人HELLOlifeに加えて、事業実施地域である四條畷市にも協定参画をいただき、四者で事業を実施しました。四條畷市との連携により、地元企業参画型の事業モデルに移行。サステナブルな事業運営ができるよう、参画企業や入居者等の受益者から費用を徴収しての運営を試みました。

/ 就活や仕事の悩みを晴らす7日間 お寺deハレパーレ!



地域拠点と連携することにより民間資本比率を高め、行政資本だけに依らない持続可能な就業支援の在り方を模索することを目的に社会実験イベント「就活や仕事の悩みを晴らす7日間 お寺deハレパーレ!」を開催。大阪・南堀江に位置する浄土真宗本願寺派 萬福寺と公益財団法人日本財団の協力を得て、「働くこと」に悩みを持つ若者を対象に、14種のコンテンツを提供し、就業支援における効果の検証も実施。また、お寺を支える檀信徒・檀家のみなさまの協力を得ながら、就業支援にまつわる情報発信の可能性についても実験的な取り組みを行いました。

2. 既存施策の価値拡充・刷新

/ 総合就業支援施設 OSAKAしごとフィールド



2017年より、大阪府の総合就業支援施設 OSAKAしごとフィールド事業を受託し「全国で一番信頼される就業・人材確保支援サービス」を目指し、大阪府や連携機関と協働しながら課題解決に取り組んでいます。社会環境の変化、求職者・中小企業のニーズを的確に掴む中で、時代のニーズに合った就業支援施設の理想の在り方を模索し、公共サービスの先駆的モデルとなるよう尽力しています。



「若者支援」は政治の文脈に登場してから15年とその歴史は浅く、未だ踏み込んだ施策づくりにまで発展していません。そこで、若者支援者等の専門性と実績をもつ方だけでなく、従来交わることのなかったIT やクリエイティブ分野の技術を持つスペシャリスト集団で「若者支援施策イノベーション委員会」を結成しました。2017年より公益財団法人日本財団の助成のもと取り組み、委員会4回とシンポジウム1回を実施しました。



第一回目委員会

/Guest 社会学博士 放送大学 副学長 宮本 みち子 氏
社会科活動家 法政大学教授 湯浅 誠 氏

OSAKAしごとフィールド・公営住宅活用型就職支援プロジェクトの視察後、住というセーフティネットについてや事業の成果指標についてディスカッションを行った。



第二回目委員会

/Guest 四條畷市長 東 修平 氏
大分大学 教育学部 准教授 川田 菜穂子 氏

公営住宅活用型就職支援プロジェクト視察後、若者支援施策とコミュニティのこれからと、今後の事業展開についてディスカッションを行った。



第三回目委員会

/Guest 面白法人カヤック 代表取締役CEO 柳澤 大輔 氏
株式会社スマイルズ 代表 遠山 正道 氏

OSAKAしごとフィールドとハローライフを視察後、これからの就業支援施設に必要なアイデアをブレインストーミング形式で出し合った。



第四回目委員会

/Guest 大阪府/公益財団法人日本財団
大阪住宅安全衛生協議会

「ハローライフ構想」で掲げた4つのアクションに関して1年間の振り返りを行い、その上で2018年度の事業についてもディスカッションを行った。



若者支援施策イノベーションシンポジウム お寺×就業支援

/Guest 日本財団 ソーシャルイノベーション推進チーム チームリーダー 花岡隼人 氏
僧侶・未来の住職塾塾長 松本紹圭 氏
株式会社 NEWYOUTH 代表取締役 若新雄純 氏
NPO法人ETIC. 代表理事 宮城治男 氏

お寺という社会資源と、就業支援を組み合わせた社会実験イベント「お寺deハレパーレ!」について、それぞれの立場から意見を交換した。



帰ったら誰かが
側にいてくれる環境だったから、
思いつきり挑戦できた。



M.Dさん

大学中退後、 自分を変えるきっかけを探していました。

「住宅つき就職支援プロジェクト MODEL HOUSE (以下、MODEL HOUSE)」への参加のきっかけは、参加者募集の案内が新聞に載っていたのを見た祖母が声をかけてくれたことでした。大学を中退してから仕事をせずに、家にひきこもりがちだったので、何か自分自身を変えるきっかけを探していました。仕事探しも不安だし、一人暮らしの経験もない自分にとっては、その両方のサポートを受けられることが夢のような話でした。

人生初めての一人暮らしで経験した 「一国一城の主」気分！

MODEL HOUSEでは、提供してもらった部屋を自分の手でリノベーションするプログラムがありました。未経験でしたが、職人さんにレクチャーしてもらいながら壁を塗装したり、床にシートを敷いたりして部屋を仕上げました。その過程を経験しているからこそ、自分の部屋に深い愛着も持てましたし、この部屋をこれからどのように育てていくのかとても楽しみになりました。

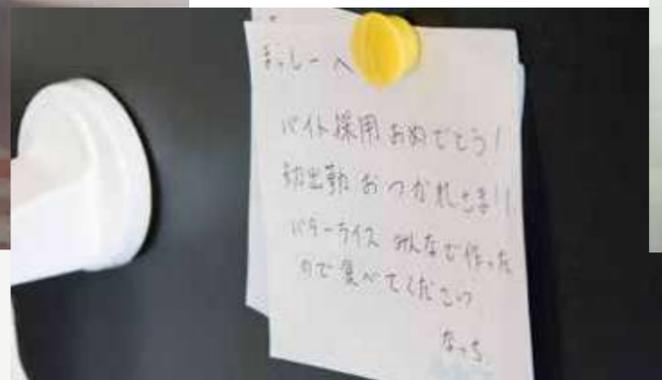
また、人生で初めての一人暮らしだったので、驚くこともたくさんありました。当たり前のことなんですが、食事も洗濯も掃除も、自分の身の回りのことは全て自分でこなさなくてはなりません。何もしないままだと部屋は荒れていくし、その荒れた部屋を見ると気持ちも塞がってしまう...大げさかもしれませんが気持ちは「一国一城の主」です。自分だけの部屋をもつことで、これまで以上に自分の生活を見直しましたし、責任感も持てるようになりました。

目の前のことだけでなく、 “将来のこと”を考えられるように。

MODEL HOUSEを通じて、飲食店でのアルバイトもはじめました。これまでは目の前のことしか考えられませんでした。アルバイトを続けることで決まった収入が得られるので、少しずつですが貯蓄ができるようになりました。それによって、将来のことを考える余裕も持てるようになったのが大きな変化です。

頼りにされることが嬉しい自治会活動。

MODEL HOUSEでは、コミュニティプログラムの一環で自治会活動にも参加します。入居して間もなく、自治会のメインイベントである夏の盆踊り大会がありました。僕たち入居者は、盆踊り大会の準備として櫓やテントの設置を手伝いました。もともと団地に入居されている方の半数が高齢者と聞いていたので、僕たちが入居してお手伝いすることで少しでも役に立てたら良いなという気持ちで参加していたのですが、想像以上に頼りにされ喜んでもらったことが嬉しかったです。「また次も頼むで!」と言われたことで、団地のメンバーとして認めてもらったかのような感覚になりました!



△パーティの際、積極的に準備をする姿が。

◁採用時にメンバーからもらったメッセージを冷蔵庫に貼ってある。

NPO法人HELLOlife・大阪府・公益財団法人日本財団の三者が協働で実施した「住宅つき就職支援プロジェクト MODEL HOUSE」へ参加。就職のサポートだけでなく、公営住宅の空き室が住居として提供されるこのプロジェクトで、人生初の一人暮らしを経験しました。現在は、就職サポートプログラムで就職が決まった飲食店で週5日ほどアルバイト勤務しています。

HELLOlife STORY No.2&3 - HELLOlife

「働くこと」が好きだったって気づいた。
自分と向き合っではじめて、



T.Nさん

納得のいく仕事さがしをしたい方に向けて提供している約1ヶ月間の就活サポートプログラム「ハローライフスクール（デイコース）」へ参加。企業交流イベントを通じて、オーダーメイドのマリッジリングを手がける株式会社 encochi へ、ブランドデザイナーとして入社。現在は、新しいマリッジリングブランドの立ち上げを担当し、商品の企画やパッケージのデザイン、Webサイトの制作、マーケティング戦略立案など、幅広く活躍しています。

立ち止まってもいいから、 自分の考え方や感じ方に向き合うこと

結婚や年齢的なこともあって、この先も働き続けるかどうかで悩んでいました。周りは専業主婦も多かったりして…。私くらいの年齢の人は、女性としてどういう選択をしているのかを知りたいと思っていました。その頃、ハローライフ1階のブックカフェに「職人の仕事」や「働き方」の本をよく読みに行っていたんです。

これからの人生、自分はどうしていきたいのか、ちゃんと向き合いたいと考え、ハローライフスクールに参加しました。スクールって「絶対に就職する」ことがゴールとして決まっているわけじゃなくて、「人生の筋道を考えよう」ってスタンスなんですよ。これまでの人生を振り返ったり、自分や仕事・働くことへの問いかけと向き合ったら、働いている自分の姿ばかりが思い浮かんで…「あ、私は働いていることが好きなんだな」って気がついたんです。スクールが終わった時には「絶対働こう」と思っていました。

人とのつながりを感じることができる 環境で、働くことが何より楽しい

前職ではキャラクター文具やグッズのデザインをしていたんですけど、「私で作ったものが届いている」という実感を持ってなかったんです。なので、一つひとつ愛情を込めて作ったものが、どんな人に届いているのかが見える環境で仕事がしたいと思っていました。encochi が展開するブランド「mina.jewelry」のことはもともと知っていました。ハローライフの求人サービスに掲載されていた記事を読んだことや、ハローライフのマッチングイベント「ホンネで話せる夜の合説」でスタッフさんから実際の仕事について直接話を聞いたことも入社後の押しになりましたね。

仕事って、一人ひとりの個性を活かして、一つのことに向かっていくじゃないですか。家にいたら得られない経験ですし、何より面白くて楽しい。そう思えるようになったのも、年齢や社会の常識に縛られ過ぎずに、「自分はどうしたいのか」って素直に向き合うことができたからだと思っています。

「自分の名前を呼んでももらえる場所」で
感じた自分の成長。

求人サイト「ハローライフ」に掲載されている企業のインタビュー記事を読んで、Webサイトや3DCG、映像、映画のプロモーション、企業サイトなどの制作を手がける株式会社インフィニティストイルに入社。現在は大手メーカーのパンフレットやカタログの制作を中心に、グラフィックデザイナーとして活躍しています。

「もしかして俺、呼ばれてる？」と 衝撃を受けた企業との出会い

前職では5年ほど、飲食店関連のグラフィックデザイナーとして勤務していました。学校に行かずにこの業界に飛び込んだので、とにかく夢中で働いていて…。「飲食関係だけでなく、もっと幅広い領域でデザインをしたい」と思うようになったところに、ハローライフに掲載されていた求人記事を読みました。

その記事の中で今の会社の代表は、「専門学校時代に内定がたくさんとれたことで天狗になり、初めて働いた会社で調子に乗ってしまいました。それが原因で、会社のメンバーから名前を呼んでもらえなくなり、その日常に耐えられず結果的に自主退職したんです」と自身の過去の間違いをまっすぐに語っていました。その経験が今の経営の在り方に生きていることも、記事を読んで感じたんです。

当時の僕は、もっと認めてもらいたいという気持ちがありました。業務内容が自分にぴったり合っていたこともありましたが、「自分の名前を呼んでもらえなかった」という代表の経験にも何か惹かれるものがあり、「もしかして俺、呼ばれてる？」と感じて求人に応募しました。

先輩やお客さんに信用してもらえている 実感や、自分がここにいるって 認めてもらえている感覚が力になる

入社後は、これまで経験してこなかった業種の媒体、お客さんとのやりとりで奮闘する日々。前職で経験がある分「できないといけないうって必要以上に自分を追い込んでいました（笑）。お客さんと頻りに会って依頼の意図を汲み取るという経験が少なかったため、それを最初の一年くらいで一気に学びました。業務量は多く、求められるレベルも高いです。でもそのおかげで、アイデアを練ったりデザインスキルを高めたりと、自分の意思次第でやれることが広がったことは自分にとって大きなことです。

ただダメ出しされるんじゃないかと、なぜダメなのかを理解できるように導いてもらえるから成長できるんだと思います。先輩やお客さんに信用してもらえている実感や、自分の存在を認めてもらえている感覚がすごく力になります。おもしろいほど自分の成長を実感できますよ。

いずれは会社の運営に関わる重要なポジションを担ったり、海外支社で働いたり…目標に向かって新しい挑戦をしていきたいと思っています。



H.Tさん

ハローライフ

期間 : 2013.5.12～現在
テーマ : 新しい公共づくりの総合拠点



概要 OVERVIEW

個人・企業・行政がもつ課題に対し示すビジョン・プラン・マネジメント・評価・提言等、NPO法人HELLOlifeが展開する全プロジェクトの価値創造が行われる総合拠点です。就業システム・組織開発支援等、ひとりの人生に向き合った課題解決プロセスを経て、個人が輝き働く公共づくり・既存施策の価値拡充・刷新を実現するための研究と実践を日々行っています。

背景 BACKGROUND

若年無業者約56万人、完全失業者約222万人、非正規雇用者数約1980万人、生活保護受給者数約214万人。現在の日本には、厳しい雇用情勢の下、フリーターや非正規などの不安定就労、学校卒業後の無業状態、長期失業など職業的に自立できない状況にある若者が多く存在しています。いきいきと働いて自立し、社会を支えるはずの若者が不安定な雇用の中でキャリア形成しづらいこの状況は、経済・社会環境の変化に起因するもので、若者個人だけでなく全ての人に関わる社会全体の問題です。若者に限らず「働く」すべての人、多様な幅広い層とともに切り拓いていける、新しい働き方や仕事探しのモデルを見つけ実践する中で、「しあわせを感じながら働く人」を多く輩出します。

1階 / BOOK&CAFE

働く人や仕事探し中の人の心が休まるホットした時間を提供する日本茶スタンド「CHASHITSU Japanese Tea & Coffee」が入居。インテリジェンス機能として、200冊以上の「働く」「仕事」関係の本をストックしたライブラリーも。

2階 / WORK INFORMATION

ハローライフのサービスに関するご案内窓口。求人情報、参加を検討しているイベント・プログラムに関する相談、PCの利用が可能。

3階 / EVENT SPACE

就業支援プログラム「ハローライフスクール」や、「働く」「仕事」に関するイベントやワークショップなどを定期開催しています。

4階 / CHASHITSU factory

1Fで提供する商品の製造工場。就職活動を始める前に、働く自信やスキルを身につけたいと考える若者たちがインターンシップを経て、一般企業での就職を目指しています。

プログラム概要 PROGRAM OVERVIEW

求職者向けサポート

人生100年時代と呼ばれる昨今、働く個人に対してもキャリアオーナーシップ[※]を持つこと等が求められてきています。そんな中、就職先企業に自分自身のキャリアを委ねるのではなく、自ら考え、仲間との関係性を育みながら、キャリアをつくるためのコミュニティやサポート体制が必要なのではないかと考えています。「就職支援」はもちろん、その先の人生の質を高められるサービスの提供を目指しています。

※キャリアオーナーシップとは、ハローライフでは「自分で自分の人生をハンドリングする力」と捉え、就職決定までに限らず、就職後の人生においても必要不可欠なスキルだと考えています。



/テーマ：生き抜く力を身につける

お仕事探しの前	お仕事探し中(検索・応募・選考)	お仕事開始
・人生を考える短期集中型就活プログラム 「ハローライフスクール(デイコース/ナイトコース)」	・個別相談 ・求人紹介 ・企業訪問のコーディネート ・マッチングイベント 「ホンネで話せる!夜の合説」「コタツ就活EXPO」	・仕事上のステップアップ支援 ・交流の機会

企業向けサポート

求人倍率の高止まりや少子高齢化を背景に、特に中小企業では人材不足が深刻化しています。採用や育成などの人材戦略は重要な経営戦略として、企業成長の生命線となっています。ハローライフでは求職者と企業、双方の目線に立ち、「採用活動」だけでは終わらない人と組織の問題に対し、採用から人材育成、組織づくりにいたる一貫したサービス提供をしています。これらのサービスを通して「誰もが自分らしい働き方・生き方を実現できる」組織環境への変容に伴走しています。



/企業：ともに学び、成長する組織への変容

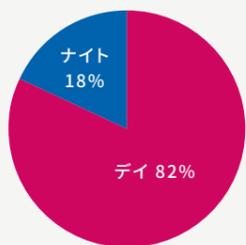
採用活動	求人像の明確化・魅力の言語化(求人記事、コーディネート)
合同研修	社会で活躍できる人材の育成
組織開発	対話のある組織へ



ハローライフスクール

企業の求人エントリーする前に、「そもそも自分はどんな仕事がしたいのか」「どんなふうに暮らしたいのか」といった理想の働き方や暮らし方(自己概念)を明らかにし、それはどんな仕事や会社であれば実現できるのか(仕事理解)ということに向き合いながら、「ひとりで戦わない仕事さがし」をする就活プログラムです。

これまでに受講した若者



述べ参加者数:376名
 デイ:250名 ナイト:85名
 ※2015年4月～2019年3月末時点

スクールの年齢層



/参加理由の分析

最も参加している20代後半の方は、「手に職をつけたい・スキルアップしたい」「次は自分が納得した仕事をしたい」といったキャリアの見直しやステップアップを図るための機会として参加しています。また、次に多い20代前半の方は、「一人でする就活に限界を感じた」「次こそは失敗しない仕事探しがしたい」といった既卒での就職活動をサポートしてもらえる環境を必要として参加を決意されている方もいます。

/デイコース

デイコースのカリキュラムは、1週目を「自分を理解し、自己分析を深めよう」、2週目を「企業視点を身に付け、就職への道筋をみつけよう」とテーマを設定しています。3週目からはスクールでの経験を活かし、進路決定に踏み出していくことを目指します。

1週目「自分を理解し、自己分析を深めよう」

- ・オリエンテーション(スクールの流れやスタンス、ポイント)
- ・自分の人生を振り返り、大切にしている価値観や強みを見つける
- ・仲間からフィードバックをもらうことで、自己理解を深め、関係性も構築する
- ・自分の「働く目的」を考え、就職活動をする上での大切な指針を見つける

2週目「企業視点を身に付け、就職への道筋をみつけよう」

- ・職場見学などを通して、心うごく仕事をしている企業のリアルな情報に触れ、働く人の声を聞く
- ・職業、業種や職種、条件面以上に、何を軸にして仕事を探すのかを見極める
- ・3週目以降の仕事探しに向けて、不安や悩みなどを解消する
- ・就活の行動指針を策定。個別面談も可能

3,4週目以降「スクールでの経験を活かし、進路決定に踏み出そう」

- ・継続的な個別面談・サポートのもと、仕事探しをすすめる
 - ・スクール生同士で近況報告・アドバイスし合う
 - ・ハローライフ登録企業や、サポーターとの出会いをコーディネートする
 - ・進路決定後は「働く」を考えるOB・OGコミュニティへ参加可能
- ※ 1ヶ月経過後もおおよそ3ヶ月を目処に引き続き就職サポートを実施

デイコース 計14期開催

2017年度:9～15期(計7期)
 2018年度:16～20期(計5期)
 2019年度:21～22期(計2期)



/ナイトコース

ナイトコースのカリキュラムは、平日の日中にお仕事されている方を対象に、週に一度のペースで平日の夜3時間、6週間にわたりプログラムを開催しています。

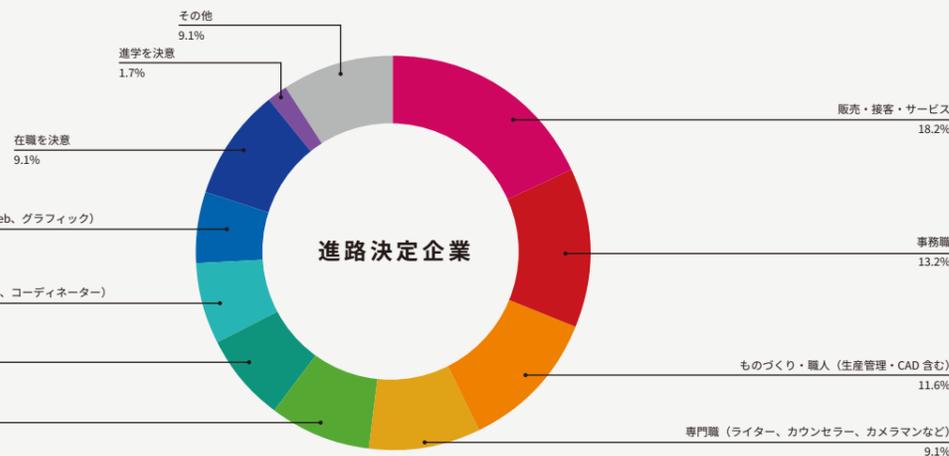
- 1週目** ・オリエンテーション(スクールの流れやスタンス、ポイント)
 ・自分の特性と他者の価値観を理解し、違いを認める姿勢を養う
- 2週目** ・自分の人生を振り返り、大切にしている価値観や強みを見つける
 ・仲間からフィードバックをもらうことで、自己理解を深め、関係性も構築する
- 3週目** ・自分の「働く目的」を考え、就職活動をする上での大切な指針を見つける
- 4週目** ・他者からの視点やグループダイナミクスを活用して自己理解を深める
- 5～6週目** ・特に深めたいテーマについてダイアログの場を提供
- 7週目以降** ・継続的な個別面談・サポートのもと、仕事探しをすすめる
 ・スクール生同士で近況報告・アドバイスし合う
 ・ハローライフ登録企業や、サポーターとの出会いをコーディネートする
 ・進路決定後は、「働く」を考えるOB・OGコミュニティへ参加可能

ナイトコース(週に1度×6週間) 計11期開催

2017年度:1～5期
 2018年度:6～9期
 2019年度:10～11期



/進路決定企業



株式会社ナカニ(じじゆら)、株式会社生田、和研工業株式会社、UDS株式会社、株式会社日光プロセス、NPO法人サボネ、NPO法人Co.to.hana、社会福祉法人つながり、SOUYOU、有限会社アントリー、有限会社シューズ・ミニッシュ、NPO法人ちゅうぶ、株式会社encoichi、有限会社シサム工房、有限会社Lプランズ、東洋産業株式会社、株式会社大阪フード、株式会社マツヤ、株式会社メディプラン、株式会社エイチ・エス・エイ、株式会社中川政七商店、ワツカナジカン援農プロジェクト、シモイチナジカン(一部抜粋)



ステップアップ支援プログラム

自己分析・企業研究・就職準備研修に取り組むプログラムです。およそ2週間の集中講座を受講した後は、それぞれが希望する企業へ応募し、就職を決定していきます。ハローライフのコーディネーターが参加者と企業の間に入り、目標設定や悩み相談・トラブル対応・定着支援など、さまざまなサポートを継続して実施しています。

/企画概要

ハローライフスクールの進路決定後のステップアップをサポートするために、参加者一人ひとりの「働く」「仕事」での活動を支援するために、ハローライフ大学院を実施。進路決定者が任意で参加しています。テーマは、「仕事と連動した自主活動について」「現職からのステップアップを目指したスキルUP」など様々です。

/参加者の声

参加してみて、自分が思う答えを持つこと、または見出せるようになった事が大きいです。

一言で言えば主体性です。主体性を本当に持つために考え続けることができたことで、参加しなかった将来との差がかなりあると感じています。

主体性を育てるこの場があったことで、様々な角度から物事を見れるようになり、ここ一年は悩むことはほぼ無くなりました。



/未経験からはじめる 大阪IT転職相談会



IT業界の様々な働き方・業種について相談に乗る毎月定期開催しているイベントです。ITと言っても幅広く、プログラミングからデザイン、WebやSNSなど多種多様な仕事が存在します。また、伸びしろがある業界と言われますが、身近に実際に働いている人が居なければ一体どんな仕事なのかイメージがつかないかもしれません。ITに興味があるライトな方から、自分に合う業種を教えて欲しい・次の一歩の踏み出し方まで、幅広く転職・独立支援で活躍されている経験豊富な講師がお答えします。

/大学への出前講座



ハローライフの行っている就職支援の手法やノウハウの一部を活用したキャリア支援の授業を実施しました。自身の考えと行動で積極的に就職活動を進めることができる学生を増やすことはもちろん、大学内のキャリアセンターや先生以外にも、大学外の施設（ハローライフなどの民間団体・行政の就職支援機関など）の活用方法などをお伝えして、就職活動を加速させることを目指しました。

過去実施校：大阪芸術大学様、甲南大学様、相愛大学様、奈良県立大学様

内定写真館

システムエンジニア・プロカメラマンと協働し実現した就活専用「無人」証明写真スタジオ「内定写真館（うちさだしゃしんかん）」をオープン。「就活にふさわしい証明写真の撮影」と「キャリアアドバイザーによる個別就職相談」を提供し、「就活用につくられた自分」ではなく、「無理なく・自分らしく・自信がもてる」就活を応援・サポートします。ハローライフ3階を拠点とし、大学への出張撮影も実施しています。



履歴書に必ず必要な証明写真。写りの良し悪しは、第一印象をも左右してしまうほどです。システムエンジニア・プロカメラマンとの協働により、就活証明写真にふさわしいライティングや機材、正しく撮影するためのシステムを設計したことで「ハイクオリティな仕上がり」と「無人撮影環境による価格の安さ」を実現。就活に自信をもたらす証明写真を、求職者の手が届きやすい価格で展開しています。

/プロボノ Wednesday!



仕事を探すだけでなく、働き方に悩む人やハローライフを通じて就職した人の次なるステップとして、職業上のスキルを活かしたボランティア“プロボノ”が集まり、新しい働き方やスキルアップ、社会貢献など、人生の更なる充実を考えるイベントを毎月第3水曜日に開催しています。

/ごみひろい



「ごみひろいに来て、はじめて友達できました。」「仕事では得られない“社会のために何かする”気持ちよさを実感した」ごみひろいを通じて、まちをきれいにするだけでなく“出会い”、“仲間・居場所づくり”、“社会人基礎力の養成”などといった、若者の社会参加の一歩や前向きな力を自然と身につける機会としても活用しています。

職業人生の長期化やライフステージの多様化するこれからの時代において、働く個人はキャリアを「自ら作る」というキャリアオーナーシップや「変わり続ける」姿勢・考え方が求められています。一方、企業組織も、従前の求人要件を繰り返すのではない、求職者目線で考えた「採用活動のあり方」や企業と働く個人が対話を通じて、それぞれに即した制度設計、成長・活躍できる環境づくりなど、互いの成長に貢献しあえる関係性の構築が求められています。

ハローライフでは求職者と企業、双方の目線に立ち、採用から人材育成、組織づくりまで「人と組織」に関わる一貫した取り組みを通じて、「誰もが自分らしい働き方・生き方を実現できる」組織環境への変容に伴走しています。

/ハローライフ・企業支援サービスの事業領域

ともに学び、成長する組織への変容

フェーズ	採用	人材育成	組織づくり	その他
必要な取り組み	・求人像の明確化 ・職場環境などの魅力発信	・個人のキャリア開発支援	・対話できる関係性 ・人事制度設計など	・組織運営、チームづくりの理論や先進事例の学び
サービス内容	・求人記事 ・コーディネート支援	・合同研修	・組織開発 ・オーダーメイド研修	・企業向けセミナー

合同研修

働く個人や環境変化に伴い、企業の役割は「雇用し続けることで守る」だけではなく、「社会で活躍し続けられるように支援する」ことが求められています。中小企業において、事業開発や組織運営をリードする中核人材の育成は急務である一方で、自社単独で育成につながる研修を実施することは難しい現状にあります。そこでハローライフでは、各社のニーズを組んだ研修機会を設計・実施することで、社内や社会で活躍する人材育成をサポートしています。



/企業の未来をともにつくるセルフリーダーシップ研修

20代の若手社員から30代の中堅リーダー層を対象とした、3ヶ月間のプロジェクト型研修。コミュニケーションスキルの向上に加え、他部署と連携して事業推進する考え方や、組織構造・課題解決プロセスなどを異業種の方々とともに学ぶ研修プログラムを実施。2日間のプログラムと2回のフォローアップ研修を行うことで、知識やスキルの習得だけでなく、中期的な成長ステップを踏むことで、学びが定着していく仕組みを設計しました。

開催実績

2018年05月：第1期 9社18名
2018年10月：第2期 3社 8名

/組織の未来を担う人のリーダーシップ研修 ～ティール組織・不確実性などのトレンドを踏まえて～

経営目標達成のため、チームの中核を担っていく人材を対象に「現場が抱えるチームの課題解決」「理想のチーム形成に向けての実践」を通し、次世代リーダーとしての意識醸成と経験を積むことをサポートする研修プログラムです。プログラムは、売上7万部超えの「ティール組織」解説者 NPO法人 場とつながりラボ home's vi 嘉村賢州氏が監修するなど、トレンドを踏まえた内容を設計しました。

開催実績

2019年10月：第3期 6社9名
※2017年度から実施している研修をリニューアルしました

/社会課題体感型人材開発プログラム「ラーニング・ジャーニー」

現場訪問や観察を通して、課題に直面する当事者や課題解決を目指す実践者等との対話から学ぶ手法「ラーニング・ジャーニー」。「社会課題への感度の高い人材育成」を目的に、ラーニング・ジャーニーを活用した社会課題体感型人材開発プログラムとして視察いただきました。2日間に渡り、弊社が運営する各拠点の訪問・スタッフとの交流を通じて、課題解決へむけたアクションや価値創造を生むためのヒントを得ていただきました。

開催実績

2019年8月1日～2日
日本電気株式会社 (NEC) 社員12名
※NPO法人ETICと協働で企画設計・実施

イベント／セミナー

経営者やマネージャー層に「現場で役立つ」知見や繋がりを得る機会提供を提供しています。「企業成長の拡大」と「若者が働き続けることができる社会環境づくり」をテーマに、実践者や先進的な企業を招いたトークイベントなどを実施しています。

/Tokyo Work Design Week 連携企画



2016年度より、働き方の祭典“TOKYO WORK DESIGN WEEK”の大阪会場として「働く」を考えるイベントを開催しています。

/組織を変える、プロセスのつくりかた

～まちづくり・組織変革のプロに学ぶ変革を起こす力～(2017年11月17日)
大企業病を脱する組織変革など、考えの異なる人や組織を巻き込み変えていくプロセスには、どのような場や働きかけが求められているのでしょうか？オープンイノベーションやまちづくりの手法に学びます。

/筋肉ナイト～100年時代をしなやかに生きる～(2018年11月19日)
人生100年時代に呼応されるかのように、長く働く体作りに欠かせない筋トレに注目が集まった2018年。病気、怪我、離職、スキルの陳腐化…。学び直しやキャリアチェンジをも余儀なくされる時代を、しなやかに生き抜くキャリアと体作りとは？

/謝罪マスターから学ぶ 謝罪力を身につけナイト!(2019年11月21日)
吉本興業の元プロデューサー・広報マンで、様々な謝罪現場で対応に当たってこられた竹中功さんをお招きし、危機管理・コミュニケーションについてのトークイベントを開催しました。

/等身大組織論 #1～4



/「引く張る」リーダーから「見守る」リーダーへ。大阪・生野の靴メーカーがはじめた、自走する組織への変革(2018年8月24日)
年商20億企業に成長したシューズ・ミニッシュから、ピラミッド型の垂直組織から、自走する水平組織への変革に向けた実践とその背景や考え方についてお話を伺いました。

変化に向けた一歩を後押しするのは華やかな成功話だけではなく、日々の組織運営に隠れた葛藤や苦悩など、実践知から紡がれる感情のこもったストーリー。
ゲスト企業が実践の中で導いた「組織の形」「自社なりの方法論」を紐解き、参加者同士の対話を通じて、これからの時代に求められる「組織のあり方」や「それぞれの実践と組織の形」を模索する場です。

/“主体性”を呼び覚ます。大阪・高槻の運輸会社がはじめた、人が育つ組織づくり(2018年10月26日)
安全や品質を守るにも、管理や縛りつけるのでは限界がある。働く社員の良心や主体性を呼び覚ます取り組みを伺いました。

/小さなエビ工場の縛らない働き方(2018年9月28日)
パプアニューギニア海産の「好きな日に働ける」「嫌いな作業はやる必要はない」など、マネジメントの常識を覆す手法の実践とその背景にある考え方に迫りました。

/人事が企業ブランドをつくる。「社内にひとりしかいない人事担当者」が取り組んだ、愛し愛される会社の採用活動とは?(2019年9月20日)
ファレスメーカー「ピース株式会社」の社内にひとりしかいない人事担当者・矢原直さんをお招きし、各社にあった採用手法を考えました。



「ここで働きたい」という強い想いをを持った人に出会えた。
マイナス面もすべてさらけ出し関係を築くのが、採用のカギ(株式会社生田)



1950年(昭和25年)に、靴職人だった生田正雄さんが生野区で創業したランドセル専門メーカー・株式会社生田。2017年10月にハローライフでランドセル職人を募集し、3名の新しいスタッフを迎えました。

「仕事や会社の裏側」まで見られるのが、利用の決め手

ハローライフの記事を見たときに、会社の中や裏側まで見てもらった上で、仕事探しをしている方に判断してもらえる、会社に合う人に来てもらえるんじゃないかなと感じました。ランドセル作りって、ミシンを操る姿を見ていると華やかなイメージがあるかもしれませんが、実際は単調な作業も多いんです。そこで、それぞれに役割分担があり、チームで一つのランドセルをつくるということを取材してもらいました。

「海を超えて韓国からも!3名の職人を採用

応募者からは「こんなことをしたい」「ここで働いてみたい!」という強い思いを感じたので、選考はすごく悩みました…。当初は1名だけの採用予定だったのですが、ぜひ一緒に働きたいと思う人が応募してくれて、会社としても次のステップに進みたいという気持ちが強くなり、結果として韓国在住の韓国人デザイナーを含む合計3名を採用しました。

すべてさらけ出した上で、会社自体をしっかり見てもらうこと。それが、お互いに納得できる関係を築くことに繋がるんじゃないかなと、今回の採用活動を通してすごく実感しましたね。お互いの不幸なミスマッチを防ぐためにも、マイナスに感じる部分もちゃんと伝えておかないといけないのかなと思います。

「やっぱりこの組織が好きだ」とスタッフに言ってもらえた。(NPO法人サポネ)



大阪・豊中のまちで、介護ヘルパー派遣をはじめ、地域の人々を巻き込んだイベント企画の実施などを通して、障害者の自立生活をサポートしているNPO法人サポネ。ハローライフでコーディネーター職を募集し、これまでに3名を超えるスタッフを迎えています。

「求人記事にあるのは、「法人の温度」。

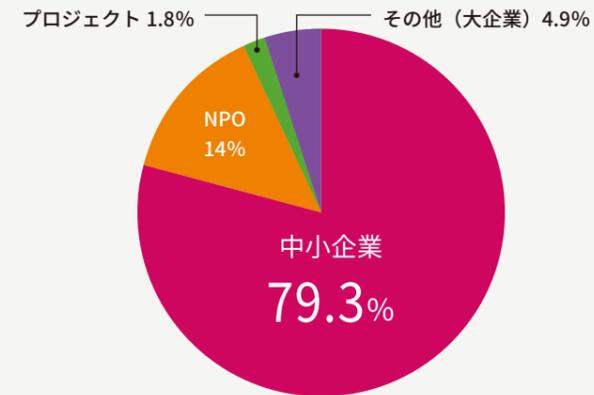
地元の情報誌やWeb媒体へ求人掲載するものの、だんだん反応が減ってきていて悩んでいました。そんな時にハローライフのサイトを見て、とても誠実さを感じたんです。実際に掲載されていた求人記事からは、会社それぞれの「温度」が感じられて、今の若い人が求めているものがここにはあるのではないかなと感じました。

「ハローライフの活用には、スタッフ教育の観点も。

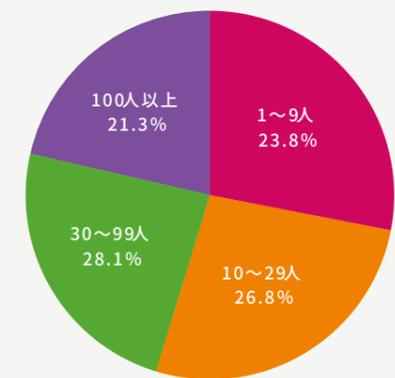
企業交流イベントへ誰に参加してもらおうか会議の場で話をしたんです。その時、事務所では妖精と呼ばれるくらいシャイで、人前で会社紹介をやりたいなんて言うとは思ってもみなかった若手スタッフが「私いきたいです」と手をあげてくれました。彼女の活躍の結果、このイベントを通して一人採用することもでき、さらに嬉しかったことが、イベント後に届いた彼女からのメールでした。「みなさんの前で法人のことについて話をしてみても、サポネが好きだということを確認しました」という連絡をくれたんです。

「この人はこの仕事がいいかな」「明るい人だから、人前に入る役割をしてもらおう…」などと決めつけすぎると、ひとりひとりの可能性を狭めてしまう。わたし自身も、改めて彼女やハローライフから教えてもらいましたね。

登録企業 業態

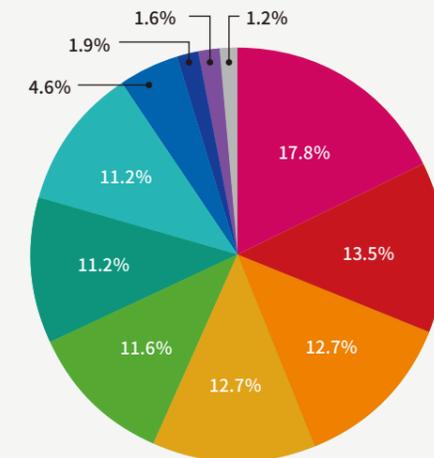


登録企業 事業規模



登録企業 募集職種

- 販売・接客・サービス
- ものづくり・職人(生産管理・CAD含む)
- 企画職(プランナー、コンサル、コーディネーター)
- デザイナー(コミュニティ、Web、グラフィック)
- 営業
- 事務職
- 支援員(福祉、保育、スポーツ)
- 専門職(ライター、カウンセラー、カメラマンなど)
- 広報・マーケティング
- エンジニア
- その他



■ 求人エントリー数: 2,182件

求人記事

ハローライフのスタッフが、その仕事の「心うごく」シーンを切り取った求人記事を制作します。「自分の道にちゃんと納得したい。」「人生と向き合って仕事を探したい。」と考え情報を求める若者へ、条件のみならず職場の雰囲気などの日常が伝わるインタビュー形式の記事で発信。企業と働きたい若者との接点を創出するだけでなく、企業自身が自社の本質的な価値や若者との向き合い方に気づく機会にもなっています。

/STEP1. 事前ヒアリング



自社のミッションや経営課題から採用目的を見直し、自社固有の「この人に来てほしい」という求人像を具体化します。

/STEP2. 取材



取材では、会社の強みや魅力を求職者に届くよう「条件」のみならず職場の「日常」や「心うごく」シーンを切り取ります。

/STEP3. 編集・掲載開始



「この会社に入ったら、自分はどんな働き方や暮らしができるだろう?」が想像できるような記事を制作することで、応募前や入社後のミスマッチを解消し、企業の人材獲得や働く個人が能力を発揮できる「採用・就職」をめざします。

/ 特集記事：NPO特集



ハローライフに掲載している求人記事をまとめた「特集」記事。ハローライフには様々なNPO法人が求人記事を掲載している一方、多くの求職者は、NPO法人の業態についての理解が十分でないために、就職先としての選択肢に入らない場合も見られました。そこで、よくあるNPO法人への疑問・誤解を解消する記事を作成。ハローライフWebサイトの中でも最も読まれる記事の1つになりました。また、ハローライフに求人掲載をしているNPO法人をまとめた記事の作成や、NPOやソーシャルビジネスなどを集めた「夜の合説～社会を揺さぶるしごと編～」も開催しました。

概要・実績

ゲスト：「初歩的な疑問から答える NPOの教科書」著者 佐藤大吾氏 ライター：社領エミ氏 PV：200,397 (2020/3/31時点)

夜の合説

「ドリンク片手に気軽に話せる」をコンセプトに、企業の方とホンネで話し、今まで知らなかった仕事の魅力やホントのトコロが深く理解できるマッチングイベント「夜の合説」を定期開催。出展企業は4社～5社、参加者約40名の小規模開催で「こだわりのものづくり」「暮らしを彩るしごと」などのテーマごとに開催しています。ブース周遊率はほぼ100%で、参加者は新卒、中途、在職中の方と様々で、一般的な「採用説明会」ではアプローチしづらかったような、在職中の方へもアプローチすることができます。

開催実績

- 2017年度：6回
- 2018年度：6回
- 2019年度：1回
- ※産業創造館様とのコラボ企画も実施



コタツ就活EXPO

一般的な就活に疑問を抱いており、自分に合った企業との出会い方がわからない新卒就活生と、自社の情報や魅力を伝えきれていない中小企業・ベンチャー企業が、コタツを囲みながら相互理解を深められる合同企業説明会を実施。スマホひとつで基本的な企業情報は収集できてしまう中、新卒生が欲しがっている「本当の情報」(会社のリアルな部分)を獲得できるコミュニケーションデザインを設計致しました。



開催概要

- 2018年度**
2019年3月22日(金)
会場：ナレッジプラザ(グランフロント大阪北館1階)
参加対象：2021年卒学生・その他就職活動中の方
参加企業：25社 参加者：176名
- 2019年度**
2020年2月21日(金)
会場：ルクアホール(ルクア大阪9階)
参加対象：2021年卒学生 ※2022卒学生も可能
参加企業：44社 当日参加者：201名

コタツと、開放感のある会場

各企業ブースをコタツでセッティングし、開放感ある吹き抜けの会場で実施。企業と就活生の間にある心の壁を取り除き、コミュニケーションを深められる場を用意しました。

質問カードを用いた、コミュニケーションの仕組み

人やビジョン・商品やサービスの強さに触れ、参画企業がもつ大企業に負けないかっよさにフォーカスをあてた紹介を行いました。また、やりがいや会社の未来と同じく大事な、条件や環境・繁忙期の社内の様子など、聞きづらいことも含めて、学生と企業がより深いコミュニケーションをとれるよう、スタッフが質問に入ったり、質問カードなどのツールを活用しました。

連動イベントの実施

■2018年度：後悔しない20代のための新卒就活戦略

新卒で大企業に就職した人、ベンチャー・NPOに就職した人の2名をゲストに招いたトークイベントを実施しました。多様な業界・規模の企業がある中で、何を決め手に企業を選べばいいかわからない学生が、仕事選びの考え方や実際の働き方を知り、企業選びの軸を見つけることを目的としたイベントです。

■2019年度：就活デパートメント

会場となったルクア大阪は、JR西日本SC開発による、国内最大級の駅型商業施設。今回、合説以外にも、ルクア内の専門店と連携し、就活に自信をもって臨むためのキャンペーン「就活デパートメント」を同時開催しました。シャツ・ネクタイの着こなしワークショップや、緊張をほぐすハープティづくり、履歴書用の写真館など。飲食店舗も、就活生限定の特典をお届けしました。



住宅つき就職支援プロジェクト MODEL HOUSE

期間 : 2017.3.29～現在
 テーマ : 若者就業支援、空き室有効活用、地域活性化
 パートナー : 大阪府、公益財団法人日本財団



概要 OVERVIEW

不安定な就業状態を繰り返している若者に対して、大阪府四條畷市「府営清滝住宅」の空室を提供し、就職・住宅・コミュニティの3つのサポートプログラムを実施します。就職による収入の増加に加え、生活コストを下げるという視点からも若者の自立を促進しています。

背景 BACKGROUND

厳しい雇用情勢の中、ワーキングプア状態など、不安定な就業状況を繰り返している若者は数多く存在しています。大阪府内の若者の概ね4人に1人が非正規雇用(約37万人)であり(※1)、また、正社員の平均年収が487万円なのに対し、非正規雇用の平均年収は約172万円と正社員の半以下の金額が調査で明らかになっています(※2)。これらのことが要因となり、非正規雇用の若者は、「十分な収入が得られず、将来に希望を見出しにくい」「経済的な事情により、親元から離れることができない」「家賃が払えず、安心して暮らせる住まいがない」など、自立した生活を送ることが難しい状況となっています。

(※1) 出典:平成24年「就業構造基本調査結果」(総務省統計局)
 (※2) 出典:平成28年「民間給与実態統計調査」(国税庁)



プログラム概要 PROGRAM OVERVIEW

就職サポートプログラム



プロジェクト参加者それぞれが希望する企業へ応募し、就職決定していくことをサポート。NPO法人HELLOlifeが運営する就職支援拠点「ハローライフ」だけでなく、大阪府の「OSAKAしごとフィールド(OSF)」、厚生労働省「大阪府地域若者サポートステーション(サポステ)」と連携し、実施しました。

住宅サポートプログラム



大阪府営「清滝住宅」の空室を住宅として提供し、住まいをサポート。居室スペースと、共有利用の家電・家具が備え付けてあるコミュニティスペースを提供しました。居住スペースは自分で部屋をリノベーションし、参加者同士やスタッフとの協働体験によって信頼関係の構築やモチベーション向上へつなげました。

コミュニティサポートプログラム



自治会活動(清掃活動や行事)への参加や、地域住民・参加者同士の交流を促進するプログラム。参加者は、自治会活動を通じて社会参加の機会を得たり、職業能力を習得します。またコミュニティスペースでは、スタッフが就活や生活の相談に応じたり、参加者同士が交流を深められるプログラムを実施しています。

事業変遷 BUSINESS TRANSITION

本プロジェクトは、3年間に亘って少しずつ事業のスキームを変化させてきました。2017年・2018年は、前例のない事業の形を作り出すことに注力しました。2019年度は事業を他地域へ展開することを念頭に、民間企業および地元自治体との連携を強化しました。

1年目 2017年度(2017年4月1日～2018年3月31日)

全国初の取り組み 公営住宅活用型「住宅つき就職支援プロジェクト MODEL HOUSE」の実施

- ・公益財団法人 日本財団からの助成を受け、大阪府・公益財団法人日本財団・NPO法人HELLOlifeの三者で協定を締結。
- ・四條畷市大阪府営清滝住宅の空室をリノベーションし、非正規雇用や不安定な就業状況にある若者(15歳～概ね39歳まで)に無償提供。
- ・家賃等にかかる生活コストを削減し、低所得でも希望を持って働ける状態づくりを目指した。初年度は全部で11戸(10戸は居室/1戸はコミュニティスペース)を活用。

2年目 2018年度(2018年4月1日～2019年3月31日)

公営住宅活用型「住宅つき就職支援プロジェクト MODEL HOUSE」の継続推進

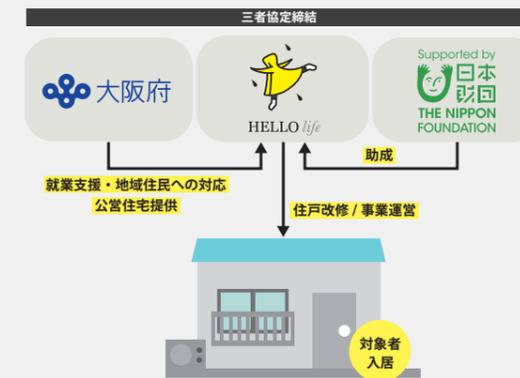
- ・事業を継続実施し、翌年度以降の展開(同地域での拡大展開)を踏まえて事業整備を行った。
- ・日本財団からの助成が終了した後も事業を継続できるよう、生み出した価値を振り返ると共に、自走できる事業の形を模索。

3年目 2019年度(2019年4月1日～2020年3月31日)

公営住宅活用型「住宅つき就職支援プロジェクト MODEL HOUSE」拡大と、継続実施するためのビジネス化推進

- ・事業戸数を11戸から30戸へ拡大(28戸は居室/2戸はコミュニティスペースとして活用)し、さらなる広がりを目指した。
- ・サステナブルな事業推進に向け、受益者(入居者や入居者の雇用受け入れ先となる企業)が負担する官民連携型事業モデルの構築を目指した。

2017～2018年の事業スキーム



2019年の事業スキーム



※図は簡略化しています。

2017年～2018年度は、大阪府・日本財団・NPO法人HELLOlifeの三者協定のもと事業を実施。モデル事業として、全11戸の空き室をリノベーションし活用しました。日本財団からの助成金を活用し、事業参加者からの費用は徴収せず、無償で住宅を提供しました。2019年度は、大阪府・日本財団・NPO法人HELLOlifeに加えて、事業実施地域である四條畷市にも協定参画をいただきました。四條畷市との連携により、地元企業参画型の事業モデルに移行。サステナブルな事業運営ができるよう、参画企業や入居者等の受益者から費用を徴収しての運営を試みました。

2019年度は、四條畷市や大東市などに拠点を持つ地元中小企業が参画する「企業参画モデル」で事業を実施しました。採用が決まった参画企業には、採用者一人当たり、採用費用の10万円と、その後の定着費用として研修などを実施し、25,000円/月額を負担いただきました。これまでにプロジェクトに参画した企業数は計15社です。採用が決まった若者は、提供された部屋をDIYする住宅サポートプログラムや、自治会の清掃活動やイベント等にも積極的に参加し、地域との交流も図りました。

使用人数:30戸(居住スペース28戸・コミュニティスペース2戸)		入居者:7名		
時期	参加者数	応募を希望・検討した人数	選考・見学に進んだ人数	就職決定者数
2019年6月期	23名	18名	12名	6名
2019年10月期	21名	12名	4名	1名
2020年3月期	延期	—	—	—
合計	44名	30名	16名	7名

プロジェクト全体での成果

【事業継続】2017年から始まった本プロジェクトは、プロジェクトの形を少しずつ変化させながら現在も継続して事業を実施することができています。
 【若者の自立応援】7名の若者が地元企業への就職と清滝団地への入居を果たしました。これによって、参加者の個人の成長や自立を促すことができました。
 【モデルとしての注目】取り組みの先進性から、新聞やテレビ等、メディア露出の機会を多く得ることができました。

事業評価コメント

2017年度 若者支援施策イノベーション委員会より

放送大学 副学長・教授 宮本 みち子さん

“住まい”は、人生設計を考える上での土台です。その土台があることで、「どんな仕事につくか」、「どんなライフスタイルを築こうか」といったその先の展望を考えやすくなります。若者の自立支援にはさまざまな重要なファクターがありますが、今回のプロジェクトは“住”というセーフティネットに正面から取り組んでいる事例だと感じています。高齢化が進む団地に若い世代が入居することは、地域コミュニティ全体への刺激という意味でもとても良いことだと思います。

千葉大学教育学部教授を経て現職。労働政策審議会委員、社会保障審議会委員、一億総活躍国民会議議員、中央教育審議会臨時委員、等を歴任。著書・論文に、『若者が無縁化する』（筑摩書房、2012年）、『すべての若者が生きられる未来を』（編著、岩波書店、2015年）などがある。



社会活動家・法政大学 教授 湯浅 誠さん

入居者が自ら団地内の居室空間のリノベーションに取り組んだプログラムがユニークだと感じました。このプログラムの意味や役割を考える必要があると思うんです。僕の理解では、これは「自分の暮らしを自分でつくる」、その実感を取り戻す過程でもあったんじゃないかと思うんですね。社会システム全体が大きくなり、その中で「生きづらさ」を感じている若者たちがいる。彼ら・彼女らが自ら、暮らしをつくる、居場所をつくる、等身大の生活を取り戻す。ここでの暮らしには、そんな意味があるのではないかな、と。

1969年東京都生まれ。1990年代よりホームレス支援に従事し、2009年から3年間に閣府参与に就任。内閣官房社会的包摂推進室長、震災ボランティア連携室長など。著書に、『「なんとかする」子どもの貧困』（角川新書、2017年）、『ヒーローを待っている世界は変わらない』（朝日新聞出版、2012年）などがある。



大分大学 教育学部 准教授 川田 菜穂子さん

入居者が住んでいる部屋だけでなく、共同で使えるコミュニティスペースの存在も有意義ですね。参加者同士のつながりを感じられる場所だと思いました。こうしたスペースがあることで、入居後も個人の居室空間に閉じこもらず、日常的に会話をしたり、食事をしたり、関係性を維持できるところが良いですね。

1977年兵庫県生まれ。住宅メーカー勤務、神戸大学教育研究補佐員を経て、2010年に大分大学教育福祉科学部・講師に着任。2014年より現職（2016年に教育学部に改組）。専門は住居学（住宅政策・建築計画・住教育など）。著書に『若者たちに住まいを！格差社会の住宅問題』（共著・岩波書店）などがある。



四條畷市長 東 修平さん

居室空間とコミュニティスペースを見て、改めて民間らしい、ユニークな取組みだと感じました。参加者の皆さんが、建築業に携わる職人の皆さんの協力を得ながら行ったというリノベーションにも感心しました。部屋全体が、とても明るくて良い雰囲気ですね。これからは一人一人の若者を地域で大切にしなければなりません。生産年齢人口が減少していく時代に入っていきますから。生きづらさを抱えた若者が、今回のような取組みを通じて自立の足掛かりを得られることは価値があることだと思います。

京都大学工学部卒業、同大学院工学研究科修士課程修了（原子核工学）。その後、外務省、野村総合研究所インドを経て、現役最年少市長となる（当選時28歳）。全国初の取組みとして、民間人材サービス会社とのコラボによる副市長の全国公募など、新しい基礎自治体のあり方に挑み続けている。



複合的な評価の視点を

就業支援という文脈で考えると、正規雇用に到達したか、安定的な就業環境にあるか、という視点が重要になります。一方で、このプロジェクトには、雇用や就業だけではない、複合的な効果があると感じました。

一つ目は、本人に対するインパクト。これは、親元を離れて一人暮らしを始めたこと、たとえアルバイトであったとしても、働くという環境に自分の身を置けた、という効果を意味します。

二つ目は、コミュニティに対するインパクト。これは、高齢化率50%以上の府営清滝住宅に、若者が住み始めたことで生まれた効果を意味します。視察の際に、清滝団地に若者たちが増えたことで、清掃や祭りといった団地内の自治会活動を維持できる可能性が広がった、という話を聞きました。こうした点も見逃せない効果です。

三つ目は、就業したことによる経済的なインパクト。若者が就業の機会を得て納税者になる。それによって社会に貢献した、という見方もできると思います。

こうした事業で「成果」を問われると、どうしても短期的なKPI（Key Performance Indicatorの略、重要目標達成指標の意味。）に目が行きがちですが、実際に生まれている成果はそれだけではないと感じました。もちろん、就業率も大切な指標です。しかしそれだけではない。自分の人生が「上手くいっていない」と感じていた若者が、このプロジェクトを通じて自分らしい暮らしを取り戻す。地域に関わることで生き生きとする。そのことの価値を伝えることも大切ではないでしょうか。



社会活動家・法政大学 教授 湯浅 誠さん

社会の変化と、若者の変化と

20年ほど前までは、「支援される側」の若者も元気がありました。いわゆる“やんちゃな若者”ですね。でも、いま「支援される側」の若者は引きこもりやうつなど、より弱い状況にあるように感じます。“やんちゃな若者”は、支援する側に良い意味で反発や抵抗をしてきたけれども、今の「支援される側」の若者はそうではない。そうすると、「支援する側」が強くと「支援される側」が弱いという力関係がより顕著に現れやすくなってしまいます。だから、就業支援や生活指導を上から行うのではなく、入居した若者たちが相互的な関係性を育むこと、多様な仲間ができるよう環境を整えることが、こうした若者たちの自立を促す上で一つの方法になり得るのではないかと思います。

その上で、生活の自立のプロセスをしっかりと支援していくことが大切です。例えば、衣食を満たすことや、生活習慣を整えること、金銭管理能力、などがこれに当てはまります。シンプルな指標として、もらったお給料を全て使い切ってしまうのではなく、少しずつでも貯められる環境が出来たのか、という視点も考えられます。正規雇用になったかどうかということも重要ですが、自分の生活を守る、そのための術を身に付けることができたのか、という視点は忘れたくないですね。



放送大学 副学長・教授 宮本 みち子さん



公営住宅に単身の若者が入居することは一般的ではないため、「公営住宅の目的外使用承認」と「行政財産の使用許可」を得て大阪府営清滝住宅（大阪府四條畷市）の30戸の住戸を使用し、事業を実施しました。就職・住宅・コミュニティの3つのサポートプログラムを提供しながら、卒業生も含め2017年度・2018年度には11名の若者が事業へ参加しています。



就活や仕事の悩みを晴らす7日間 お寺deハレバーレ!

期間 : 2018.11.12~11.18
 テーマ : 若者就業支援、地域資源活用、既存施策の価値拡充
 パートナー : 公益財団法人日本財団、浄土真宗本願寺派 萬福寺



概要 OVERVIEW

“心の拠り所”として私たちの社会に根付く「お寺」という空間を、働くことや生きることに関心する若者を支える場として活かすことができないか。そんな発想から、就業支援における「お寺」という場の可能性を模索することを目的に「就活や仕事の悩みを晴らす7日間 お寺deハレバーレ!」を開催しました。大阪・南堀江に位置する浄土真宗本願寺派 萬福寺と公益財団法人日本財団の協力を得て、「働くこと」に悩みを持つ若者を対象に、14種のコンテンツを提供し、就業支援における効果の検証も実施。また、お寺を支える檀信徒・檀家のみならず、就業支援にまつわる情報発信の可能性についても実験的な取り組みをおこないました。

背景 BACKGROUND

全国の若年無業者数約74万人、失業者約186万人、少子高齢化や生産年齢人口減少にも直面しており、日本の雇用・労働の課題は深刻化しています。それに伴い社会保障費が増加し、政策予算の圧迫や財政の硬直化、経済活力の低下への影響も危惧されます。このような状況下では、行政サービスを行政資本100%で継続することには限界があります。そこで地域拠点と連携することにより民間資本比率を高め、行政資本だけに依らない持続可能な就業支援の在り方を模索しました。また、全国177箇所ある地域若者サポートステーションの認知度は27%で、サポートステーション以外も含め「知っている支援機関はない」と答えた人は約48%でした。このように支援が必要な人に情報が届いていない等の広報面にも課題を抱えています。



プログラム概要 PROGRAM OVERVIEW

お坊さんが持つスキルを活かした相談・セミナーや、ハローライフが普段おこなっている支援プログラムをお寺で開催するなど、「お寺」の資源を活かした14種のコンテンツを開催。寺院・参加者に対し、アンケート調査をおこないました。7日間で計204名が各種コンテンツに参加し、既存の就業支援ではアプローチできなかった層に必要な就業支援に関する情報を届けるきっかけをつくることができました。



お坊さんによる人生相談

キャラクターがそれぞれ異なる総勢14名の人生経験豊富なお坊さんたちが、仕事、恋、人生など、あらゆる悩みの相談にのります。1回45分の人生相談は、全30枠ほどを設け、参加者を募集しました。相談は、庭園内や本堂内など、天候・ご本人の希望に応じて場所を変えながら行いました。

キャリアカウンセラーによる仕事相談

キャリアカウンセラーの資格を持つ相談員に、仕事の相談ができるコンテンツです。(対象年齢:15~44歳以下)

納得のいく仕事さがしサポートプログラム

就活前に、グループワークを通じて、自分の「働く」軸を見つけた2日間の就活サポートプログラム。ハローライフで実施している5日間の就活プログラムを凝縮し、お寺の空間で実施しました。

講座

- ・仏教用語から考える ビジネスマナー講座
- ・喋らないコミュニケーション講座
- ・人を思いやるコミュニケーション講座
- ・落語から学ぶ!プレゼンテーション講座
- ・最期から考える、これからの働き方・生き方
- ・脱!3日坊主宣言セミナー
- ・暗闇ごはん
- ・静座
- ・絵写経 など

若者支援施策イノベーションシンポジウム

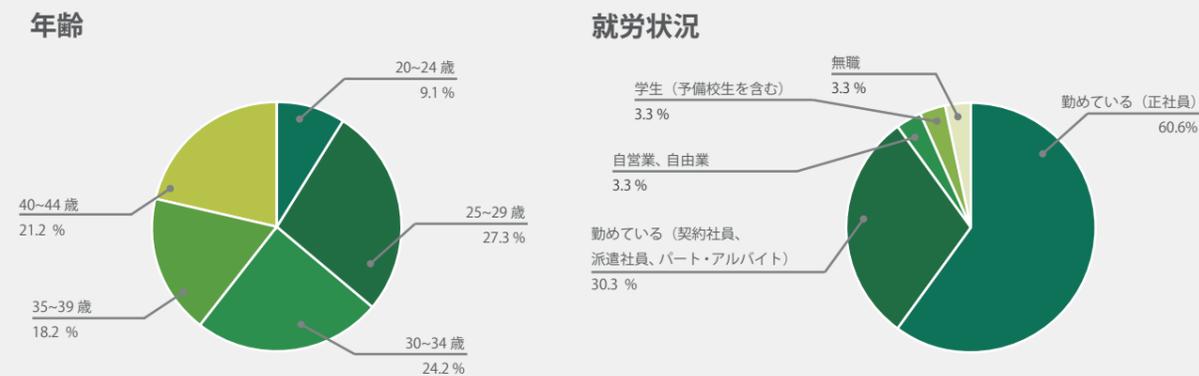
「お寺」という社会資源と、就業支援を組み合わせ今回の7日間の社会実験イベントについて、就業支援、お寺、社会、教育などさまざまな分野で活躍されているゲストをお招きし、それぞれの立場から意見を交換しました。(協力: IMPACT Lab.)





「お坊さんによる人生相談」への反応

計14名の僧侶が参加者の悩みに乗るコンテンツです。1回の相談は45分、33枠を募集。すべてのプログラムの中でもっとも早く満席となりました。



人生の相談が出来た

仕事は人生の一部ではないが、就職活動をしていると、人生の全てのように感じてしまう。今回の相談を通じて大きな枠で捉える必要があることが分かった。

就職支援機関では就職以外の相談はできなかった。本当は人生全般に悩んでいるのに、仕事に結びつく話以外は「愚痴」と捉えられそうできなかった。

人生を長期的なスパンで考える必要性に気づけた

性格面も含めて悩んでいるが、身近な友達に相談しにくい。親身に聞いてもらえる第三者の存在がありがたかった。

他の相談機関との違い

他の相談機関だと、どこまで心の奥深くを話していいかわからない。表面的な対応しかしてもらえないのではないかと感じてしまい、踏み込んだ相談にはならない。でも(今回は)話しやすかったし、実際あたたかく話を聞いてくれた。

他のサービスでは相談をしても「仕事を紹介するために自分の話は分析されているんだろうな」と感じてしまう。

直接的な就職先を紹介されるわけではないが、その分気分的なハードルは低かった

今の気持ちを否定されずに聞いてもらえた。(相談していても)「いやそれは…」と言われることが多かったので、とても新鮮だった。

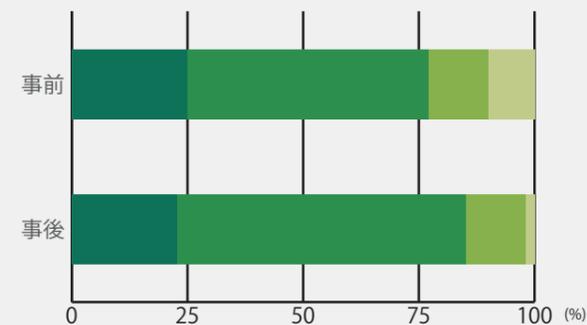
否定されない・客観的な視野が得られる

就労支援を目的とした3つのプログラムに見る事前事後の変化

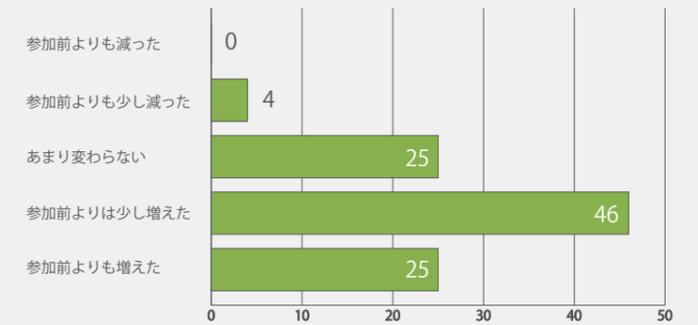
14種のコンテンツのうち、特に就職支援の機能を意識して開催した「お坊さんによる人生相談」「納得のいく仕事さがしサポートプログラム」「キャリアアカウンタによる人生相談」に参加された方を対象に、コンテンツに参加する事前事後の変化についてアンケートとヒアリング調査を行いました。

あなたは「働くこと」を前向きに捉えていますか？

非常にそう思う おおむねそう思う どちらとも言えない
あまりそう思わない そう思わない

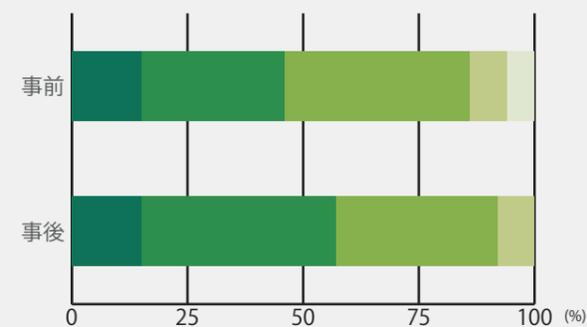


プログラムへの参加前と今とでは、働くことを前向きに捉える意識について変化がありますか？

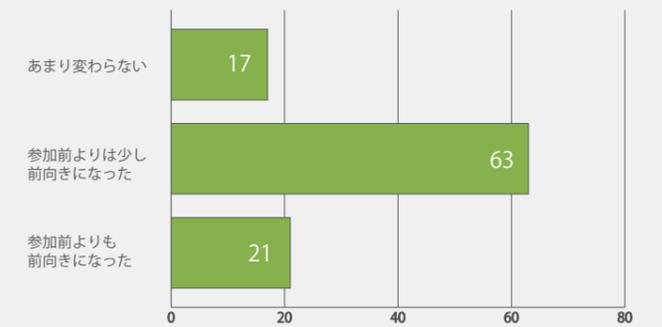


あなたは自分自身の生き方を前向きに捉えていますか？

非常にそう思う おおむねそう思う どちらとも言えない
あまりそう思わない そう思わない

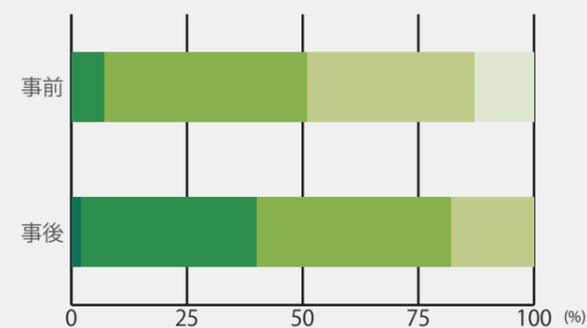


プログラムへの参加前と今とでは、自分自身の生き方に対する意識に変化がありますか？

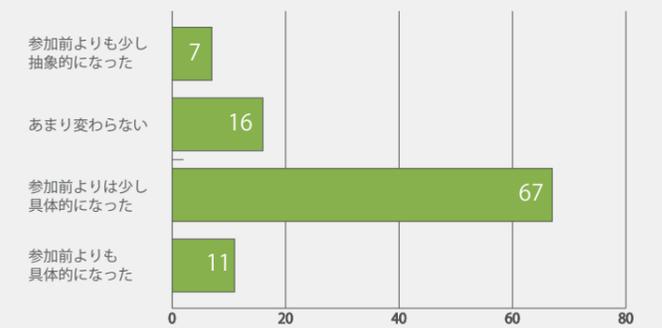


これからの仕事や人生に向けて必要な行動がイメージ出来ていると思いますか？

非常にそう思う おおむねそう思う どちらとも言えない
あまりそう思わない そう思わない



プログラムへの参加前と今とでは、これからの仕事や人生に向けた行動について、意識に変化がありますか？



更に詳細なレポートをWebサイト (<https://co.hellolife.jp/>) に掲載しています。ご関心のある方はぜひご覧ください。

寺院へのアンケート調査

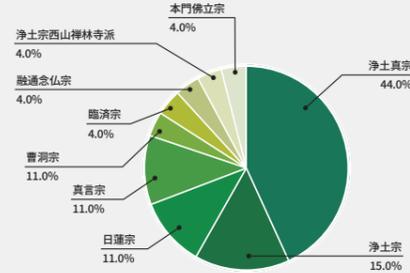
地域コミュニティの核の一つとして、お寺の持つ機能に着目。お寺のもつ独自のネットワークに、「檀家（檀信徒）」との関わりがあります。取り組みの普及を念頭に、寺院の皆さまを対象とするアンケートを行いました。

調査対象：26の寺院（配布や回収には本事業にご協力頂いた寺院からご支援を頂きました）

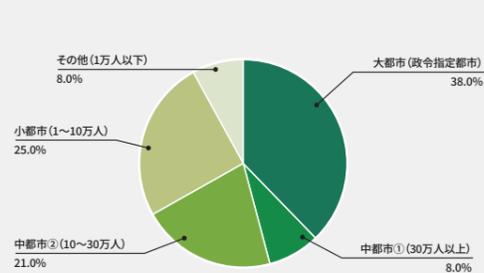
調査目的：1) 寺院という場や機能を活用し若者の就職支援を行うことについて、お寺の関係者がどのように感じるか
2) 檀家を代表とする寺院独自のネットワークが、対象とする若者層へのアウトリーチに効果的か

/回答者の属性

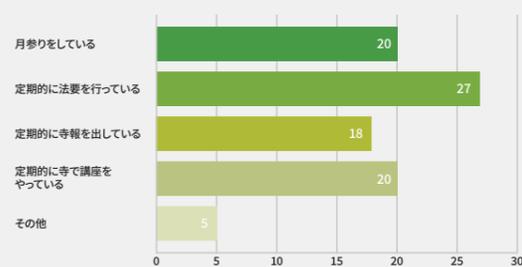
図表1 宗旨



図表2 回答頂いた寺院が立地する自治体の人口規模



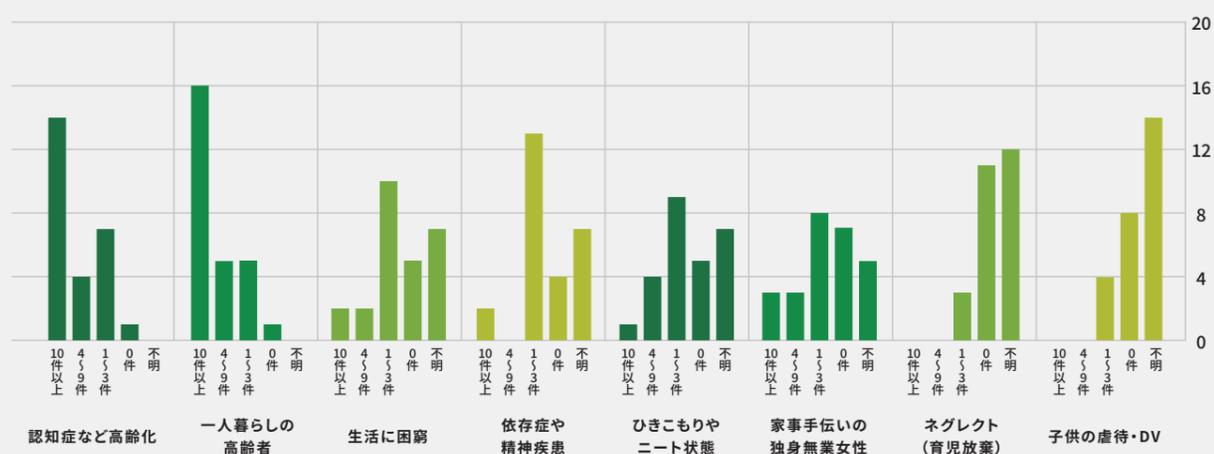
図表3 檀家との接点（複数回答）



/檀家の困りごとをどの程度把握しているか

各寺院が把握している檀家（檀信徒）の課題とその件数についてアンケート調査を進めたところ、ひきこもり・ニートや独身無業女性の存在について「1～3軒思い当たる」と回答した寺院が8、9件程度ありました。法要、月参り等で檀家（檀信徒）と深い関わり合いを築くことができる寺院は、檀家（檀信徒）の各家庭内で潜在的に抱えている課題にいち早く気づける可能性があります。こうしたネットワークを活用し、各寺院と既存にある行政サービスとの連携を行うことで、必要な人に必要なサービスを周知し、届ける可能性が広がることを期待して、今後も活動を続けていきます。

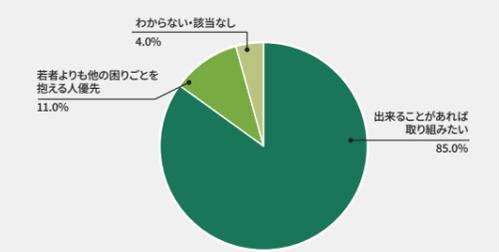
図表4 各寺院が把握している檀家の課題と思い当たる檀家数



/寺院での若者の就職支援に関する意欲

今回の社会実験イベント内で寺院関係者に「若者の就職支援について取り組みたいと思うか」とアンケート調査をおこなったところ、8割を超える寺院から「取り組みたい」との回答を得ることができました。回答では「これからの時代に必要される」という意見のほか、「寺院活性化にも繋がり、宗門の存続可能性にもつながる」という寺院側へのメリットを挙げる声も多く上がりました。こうした声は、今回の取り組みを今後、全国7万ある寺院へ広げる可能性や兆しと捉えることができます。

図表8 寺院での若者の就職支援に関する取り組み意欲



「ワカモノの就職支援への取り組み」へのモチベーション

若者を支えたい

若者がきっかけをつかむ場所が多ければ多いほどいい。お寺も協力して選択肢を増やす必要がある。

社会との繋がりが希薄になっている。ニート状態の人々の将来の困窮が目に見えている（ため支える必要がある）

現在は「終活」などの高齢者への対応が中心だが、若者に関しても協力したい。

連携の結節点としての役割がある

お寺をハブに、様々な機関と連携して社会問題に向き合うことが大切。

寺院は地域の相談窓口としての役目を果たしていく必要がある。

あらゆる世代の人を支えたい 当然の行為だ

社会への貢献として必要。

困ったときに手を差し伸べるのがお寺の役割だから。

年齢にかかわらずあらゆる人を支えたい。

戸惑いや懸念・心配の声

恥ずかしながらこの分野についてあまり知らない。少しずつ理解したい。

既に特別支援学校や児童養護施設、障害者福祉事業所の就労サービス利用など、児童福祉・障害福祉分野に積極的に取り組んでおり、活動が散漫にならないようにしたい。

高齢化率が高く、若者があまりいない。

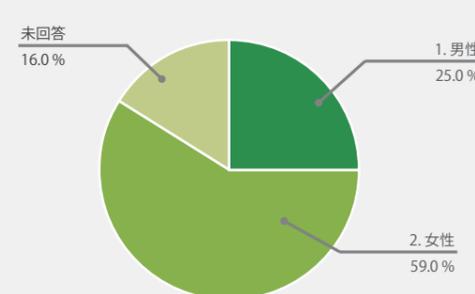
参加者への調査

働くこと、生きることに悩む若者たちが、本イベントへの参加を通じてどのように変化したのか知るために、参加者に対して事前・事後のアンケート調査を実施しました。

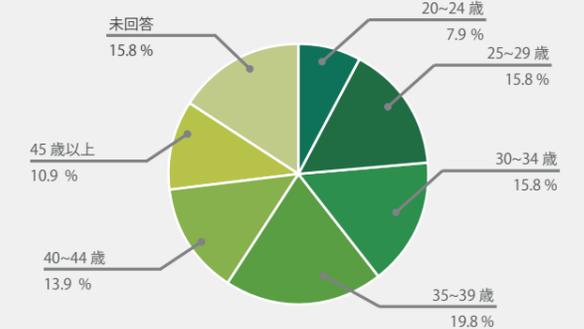
全参加者の属性

参加者の6割が女性。5歳区分で見ると20歳～24歳の参加者が少なく、参加者のへのインタビューでは「就職活動に関するサービスは若い時はたくさんあって良かったが、（年齢と共に減少し）あっても30代半ばまでしか（サービスが）ない」という意見が聞かれました。

性別



年齢



「お寺」という社会資源と、就業支援を組み合わせた今回の7日間の社会実験イベントについて、就業支援、お寺、社会、教育などさまざまな分野で活躍されているゲストをお招きし、「若者支援施策イノベーションシンポジウム」としてそれぞれの立場から意見を交換しました。(協力:IMPACT Lab.)



若者支援施策イノベーションシンポジウム ゲスト

日本財団 ソーシャルイノベーション推進チーム チームリーダー 花岡 隼人氏
僧侶・未来の住職塾塾長 松本 紹圭氏
株式会社NEWYOUTH 代表取締役 若新 雄純氏
NPO法人ETIC. 代表理事 宮城 治男氏
NPO法人HELLOlife 代表理事 塩山 諒氏



お坊さん喫茶

JR西日本SC開発株式会社が運営する大阪駅直結型ファッションビル「ルクア大阪」。そのルクア公式のInstagramアカウント・トキメキデパートにてお客さまの潜在的なニーズを“ため息”という形で集約し、新たなお店やサービスを展開する期間限定イベントが「妄想ショップ」です。この「妄想ショップ」内のコンテンツとして『あなたのモヤモヤを聞いてくれる“お坊さん喫茶”』を実施しました。「母のような包容力」「得意分野はぶっちゃけ話」「仏教界のナイチンゲール」等のコピーを掲げた個性豊かなお坊さんが、悩みを抱えたお客様一人ひとりを傾聴しました。(詳細は次のページ)



あなたのモヤモヤを聞いてくれる お坊さん喫茶

期間 : 2019.11.1~11.3
 テーマ : 相談支援
 パートナー : JR西日本SC開発株式会社(ルクア大阪)



概要 OVERVIEW

JR西日本SC開発株式会社が運営する大阪駅直結型ファッションビル「ルクア大阪」。そのルクア公式のInstagramアカウント・トキメキデパートにてお客さまの潜在的なニーズを「ため息」という形で集約し、新たなお店やサービスを展開する期間限定イベントが「妄想ショップ」です。この「妄想ショップ」内のコンテンツとして『あなたのモヤモヤを聞いてくれる“お坊さん喫茶”』を実施しました。「母のような包容力」「得意分野はぶっちゃけ話」「仏教界のナイチンゲール」等のコピーを掲げた個性豊かなお坊さんが悩みを抱えたお客様一人ひとりと対話し、悩みに対してのアドバイスをおこないました。

背景 BACKGROUND

2018年に実施した「就活や仕事の悩みを晴らす7日間 お寺deハレバレー!」内において人気の高かったコンテンツ「お坊さんによる人生相談」。仕事に関する悩みに限定せず幅広い相談内容を受けられる人生相談では、相談者自身が認識していなかった潜在的な悩みに対してアプローチができるという検証結果を得ることができました。そこで今回は様々な人々が行き交う商業施設という拠点で、「誰かに悩みを聞いてほしい」という様々なニーズを持つお客様に対してもコンテンツの強みを活かすことができるか検証をおこないました。



プログラム概要 PROGRAM OVERVIEW

ルクアイーレ3F出入り口に特設スペースを開設。話を聞いてもらいたいお坊さんを選べるオンライン予約制で実施しました。



相談時間は約20分。本企画では誰に相談すべきかわからない悩み、共感を得にくいライトな悩み、生死についての深刻な悩みまでの幅広い相談が集まり、お坊さんが傾聴。各枠の後半では、相談内容にあった仏教語が書かれた「仏教語カード」をお渡ししました。また、料金については相談後の寄付制としました。



《お客様の相談内容の例(一部)》

ご自身の将来の生き方 / 性格や思考などメンタル面の相談 / 知人に話しにくいような恋愛相談 / ご家族や家庭に関する相談 / 仕事の悩みや職場の人間関係 / 生死にまつわる話 / 仏教・お坊さんについて... など

成果 OUTPUT

3日間で24名のお坊さんが担当し、223名ものお客様が参加しました。楽しく過ごす場である商業施設にも、多様な悩みを抱え、支えを必要としている人達が数多くアクセスしていることがわかり、行政サービスがリーチできていない場所での相談支援の可能性を見出すことができました。

参加者: 223名 (うち9割が女性・半数以上が2.30代)
 協力いただいたお坊さん: 24名

OSAKAしごとフィールド

期間 : 2017.5.01~現在
テーマ : 就業支援
パートナー : 大阪府

行みは就
くんじ活
場なめ
所がた

概要

OVERVIEW

2017年より、大阪府の総合就業支援施設 OSAKAしごとフィールド事業を受託し「全国で一番信頼される就業・人材確保支援サービス」を目指し、大阪府や連携機関と協働しながら課題解決に取り組んでいます。社会環境の変化、求職者・中小企業のニーズを的確に掴み、時代のニーズに合った就業支援施設の理想の在り方を模索し、公共サービスの先駆的モデルとなるよう尽力して参ります。

背景

BACKGROUND

大阪府では、2013年9月に総合就業支援施設「OSAKAしごとフィールド」を設置し、若者、女性、中高年齢者、障がい者等の就業を支援するとともに、中小企業の人材確保にも取り組んできました。しかしながら、就職を希望しているのにも関わらず就職につながらなかったり、就職をしても継続して就業できない求職者は後を絶ちません。また、人口減少社会において中小企業における人材不足は深刻な問題となっています。特に「製造」「運輸」「建設」業界の人材確保は喫緊の課題です。

そこで、OSAKAしごとフィールドは、そのような社会環境の変化や中小企業のニーズを的確に把握し、新たな政策課題に対応する支援策を研究するとともに、先駆的に課題解決に取り組むために2017年5月に大幅なリニューアルを実施しました。



提供しているサービスメニュー

SERVICE



キャリアカウンセリング

就活の悩みや進め方に対し、キャリアカウンセラーがマンツーマンでご相談に応じます。職場体験や就職可能性診断と組み合わせたカウンセリングも可能です。(1回45分間/初回面談後、担当制)

セミナー・イベント

就活に役立つさまざまなセミナーやイベント、職場体験を実施しています。詳細は、毎月発行しているセミナーカレンダーやWebサイトで配信しています。

ハローワークコーナー

OSAKAしごとフィールド内には、ハローワーク大阪東が運営する「大阪東ハローワークコーナー」を設置しています。求人情報の提供・職業相談・職業紹介をおこなっています。

空間・PC利用

応募書類の作成などに、パソコン(印刷可)や空間をご利用いただけます。電源やWi-Fiも完備しており、個人パソコンの持ち込みも可能。ブックコーナーには就活に役立つ本や雑誌を置いています。

ワンポイントアドバイスコーナー

「応募書類、ちょっとここだけ見てほしい!」
「もうすぐ面接、どうしても今すぐ聞きたいことが...」
そんな方にご利用いただける、最大20分間のアドバイスコーナーです。

働くママ応援コーナー

育児と就活の両立をめざす方に対して、お子さまと一緒に、各種サービスメニューをご利用いただけるスペースを提供しています。

一時保育利用

OSAKAしごとフィールドの利用者であれば、就職活動中に無料で、同ビル内の連携保育所「保育ルームキッズもみの木」にて一時保育サービスをご利用いただけます。



空間のリノベーション

誰でもが使える施設として「公園」をテーマにリノベーションを行い、空間全体の雰囲気を一変。芝生の敷かれたオープンスペースではさまざまなセミナーを実施し、開放的な空間で快適な就職活動をおこなえます。



セミナーのブランディング「はたらく学校」

求人枠を持つ企業担当者や、一流スキルを持つ社会人を講師に「国語」「数学」「理科」「社会」などに準えた、スキルアップや就職につながるセミナーを実施。オープニングイベントでは、吉本芸人による授業や、キリンビバレッジとのコラボセミナーをおこない、多くのメディアに取り上げられました。



「はたらく学校」実施回数と成果

	2017年度	2018年度	2019年度
セミナー実施数	13回	25回	30回
参加者数	175人	1,155人	1,293人
新規数	21人	1,175人	707人

※新規数：参加セミナーを通して初めてOSAKAしごとフィールドに利用者登録をした人数

「はたらく学校」シリーズを含め年間90本のセミナーを実施。「はたらく学校」ブランドのセミナーは主力広報セミナーとして、タイトル・講師選定・講師からの情報発信など、細かな企画の魅力を向上する取り組みをおこなったことにより、セミナーの参加者数が増加。2018年度を受講者数1155人に対し、2019年度は1293人と、前年度比112%という結果になりました。

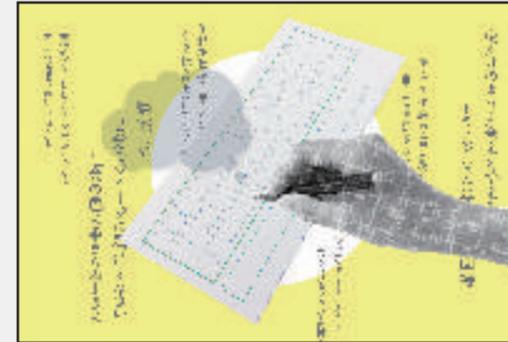
社会／言語を使わず想いを伝える?!「しゃべってはいけない面接練習」



DEAF(聴覚障がい者)がナビゲーターとなり、「無言語空間」でおこなうコミュニケーションプログラム「DENSIN」とのコラボワークショップ。面接や職場で生きる「伝える」と「分かる」の本質を体験します。参加者は、声を使えない・音声が聞こえないという非日常の環境と、就職活動にまつわるストーリーの中で、さまざまなコミュニケーションゲームに挑戦。終了後、いつもより表情豊かに会話が弾んでいる様子が印象的でした。

講師：株式会社サイレントボイス 桜井 夏輝氏、岡本 かおり氏

国語／OL歌人に学ぶ!「短歌づくりで知る自分のシゴト観」



会社員をしながら、歌人・ボードゲーム制作者として活躍する、なべとびすこ氏をゲストにお招き。ゲストの遍歴に迫ることで、「夢中になれるものの探し方」や仕事一本に縛られない「わたしの働き方」についてお伝えします。後半では、初心者でも楽しめる「短歌づくりワーク」も実施。短歌づくりは、自分の心の奥側に目を向けること。「はたらく」をテーマに、思いがけない自分の気持ちに気づき、進むべき新たな方向性が見つかるかも。

ゲスト：歌人・ボードゲーム制作者 なべとびすこ氏

技術・書道／最後の世代(?)の看板文字書き職人から学ぶ、文字書きの心得



就活や仕事において、応募資料や封筒の宛名書きなど「文字を書く」というシーンは多く存在します。そして、それらはその人の姿勢が顕著に現れるものです。そこで、製造業魅力発信記事でもバズを生み出した、さまざまな看板文字を下書きナシで書く職人たちを講師に、そのワザの実演と体験、一文字一文字に対する考え方や心得、ものづくりの魅力を学ぶワークショップをおこないました。

講師：サインズシュウ 上林 修氏、Kカンパン 板倉 賢治氏

社会見学／あなたの働く世界を見つける90分



さまざまな業界・職業の方をゲストに招き、その人々の「働く世界」を覗く新企画。シリーズもののトークセッションイベントとしてスタートし、第1回は「決断」をテーマに開催。ハードルを飛び越え、新たな分野で転身を遂げた3名の経験談を深めました。会場では、ゲストのこれまでのストーリーに思わず目をにじませる人も。「新たな働き方や生き方」を模索する参加者の背中を押してくれるような90分でした。

ゲスト：西治 誠也氏(株式会社生田)／谷川 みなみ氏(NPO法人ちゅうぶ)／鷲野 仁美氏(有限会社シサム工房)

/Life is Beautiful(年1回開催)

働き方やライフスタイルに悩む
すべての女性へ、楽しむヒントをお届け。

LIFE IS BEAUTIFUL

11.16 sat - 30 sat



スペシャルゲストによるお悩み相談、メイクレッスン、フリーマーケット、料理教室、モデル、ドクターなど、さまざまなプロをゲストに、理想の働き方やライフスタイルを考えるセミナーや、体験型セミナーなどを実施。潜在求職者の掘起こしと、若年無業女性の就業意欲促進を図りました。

開催したセミナー（一部抜粋）

- ・ゆうこす流!毎日を楽しむための本当のモテレシピ
- ・シングルマザー FP が教える「明日から使えるカンタン家計術」
- ・オンナやったら全員聞いて!「ガントーク!」
- ・よいこのための悪口メーカー 原田ちあきの「明日もかわいく生きようね」
- ・宵待ち相談室（世の中が眩しすぎて困っています）



/レモンスカッシュを飲みながらキャリアチェンジを考える夏

CAREER CHANGE

レモンスカッシュを飲みながら キャリアチェンジを考える夏

2019
8.2 (FRI) ~ 9.11 (FRI)



- ・キャリアチェンジのメリット・デメリット
- ・キャリアチェンジのタイミング
- ・キャリアチェンジの準備

売り手市場や大企業志向によるミスマッチ、3年以内の離職、家庭との両立、子育て層の再就職難など、転職市場におけるさまざまな課題を求職者向けに変換したテーマを展開するトークイベント。キャリアチェンジを経験した16人をゲストに迎え、多様な転職エピソードや「働くことや変わること」に対する価値観を伺うことで、転職活動における自分自身の考え方を見つめ直し、ミスマッチによる早期離職防止、大企業志向で転職活動を続ける若年求職者の志向や希望業種の拡大を図りました。



/ 就活ビアガーデン

大阪府 × KIRIN

40の企業と出会える、
今までにない合説。

就活 ビアガーデン

8.31 時間 17:30~21:00
会場 UMEDA J ビアガーデン

2018.FRIDAY 参加者募集中!



ビアガーデン型合同企業説明会。若年者（2019年大学卒業予定者～概ね39歳以下）を主なターゲットとした、400人規模で開催する新感覚の合説イベントです。開放的なビアガーデン会場内で、企業PRタイムをおこなったり、若者と企業がドリンクやフードとともにコミュニケーションを図ることで、互いの志向や人物像・企業像を理解し、ミスマッチの少ない効果的な交流をねらいます。本イベントは、麒麟ビール株式会社及び麒麟ビバレッジ株式会社との公民連携事業として実施しました。

参加数

就活生 336名（2019年大学卒業予定者～概ね39歳以下の現在就職活動または転職活動中の方）
企業 40社

参加者の声（アンケートより原文ママ）

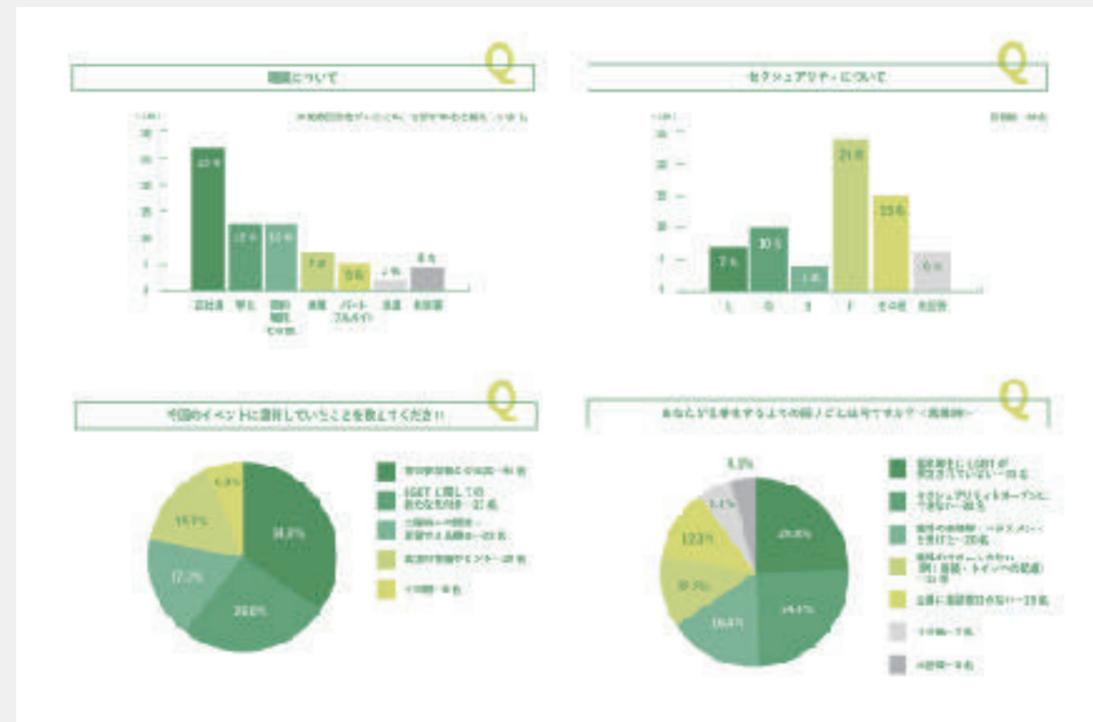
- ・ざっくばらんに担当と会話できてよかった。
- ・様々な企業様を知れて良かった。また、意外と社会人の方も多く、お話が大変興味深く良かったと思う。
- ・会社説明会等とは異なり比較的近い距離感で話をすることが出来たため、建前ではない、本音に近い部分を聞けたのではないかと、という点で有意義な時間だったと思います。
- ・企業ごとの個性や特色がわかったり、アルコールが入ることで気楽に企業の方と話すことができた。
- ・席が空いて座ったら話が盛り上がるなど、企業と就職希望者という立場でなく話せる偶然が楽しかったです





LGBTの当事者が直面する日常の壁のひとつである「働くこと」。OSAKA しごとフィールドが「あらゆる人のために開かれた就業支援施設」としてこのテーマに取り組むための意見集約イベントを行いました。NHK、朝日新聞などメディア6社に取り上げられ、この取り組みが大きく報道されました。(協力：NPO 法人 QWRC・NPO 法人虹色ダイバーシティ・大阪市淀川区役所)

実施後のアンケート結果 一部抜粋(有効回答数66名)



その他LGBTsに関する取り組み

- ・「みんなのトイレ」設置
- ・「LGBTs コミュニティスペース for Work」定期開催
- ・カウンセラー・スタッフ研修の実施
- ・その他LGBTs 関連セミナー実施
- ・「レインボーフェスタ! 2018」出展

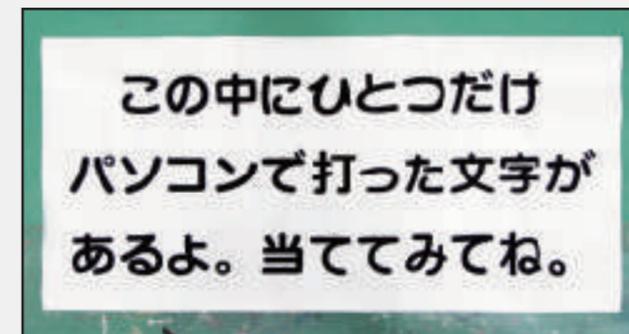


製造・建設・運輸の業界魅力発信

製造・建設・運輸業は、大阪の経済を支える大切な業界です。しかし、近年この3業種を志望し、就職する若者は年々減少しています。そこで、OSAKA しごとフィールドのWebサイト上に、3業界の魅力発信記事を掲載。著名ライターとのコラボレーションをおこない、魅力はもちろん、その業界で働くことのイメージを正しく伝えることで、多くの方へ拡散しました。

※数値はOSAKAしごとフィールド、インタビュワー、インタビュイーすべてのものを合算 ※2018年6月5日時点

/製造業魅力発信記事：下書きなしで?!大阪の看板職人の技「ブツケ書き」を喰らえ



ライター：斎藤 充博氏
取材対象：サイズズシュー、Kカンバン
記事ページPV:94,314 記事ページUU:82,288

Twitter	Facebook
・シェア数 465,000	・エンゲージメント 26,000
・RT数 58,844	・いいね数 2,627
・いいね数 144,233	
はてなブックマーク 650	Pocket 355

/運輸業魅力発信記事：

運輸業界最大手「ヤマト運輸」の働き方の実のところを聞きに行った。



ライター：社領エミ氏
取材対象：ヤマト運輸株式会社
記事ページPV:3,289 記事ページUU:2,642

/建設業魅力発信記事：

左官職人集団・浪花組が怖くなかった話。今どきの職人世界は、若手を孫のように育てるらしい。



ライター：ニシキドアヤト氏
取材対象：株式会社浪花組
記事ページPV:2,218 記事ページUU:1,774

3業界魅力発信展示ブース

3業界の魅力発信をおこなう展示ブースも設けて、連動。各業界で働く若手社員にインタビューをおこない、リアルな声を展示しました。インタビューブースはWebページ化もおこない、拡散力を持つ「魅力発信記事」とともに見ていただけるものとして公開しました。



Webサイト改修による新規流入の大幅な増加

Webサイトを見やすく、新たなロゴを用いてリデザイン。建設・運輸・製造の魅力発信を取材記事で行うなど発信を行ったことにより、Webサイトの閲覧数が大幅に増加しました。



▼3年間のPV数推移



IT化の推進

Webメンバー登録の開始による業務効率化

従来紙で行っていたメンバー登録を、Webサイト上から行えるようにSalesforceのカスタマイズを行いました。これにより、毎日数時間かかっていた紙からデータへの入力作業を大幅に短縮。スマホでの登録ができるなど利用者の利便性も上がりました。

セミナーの動画配信

2018年より、一部セミナーのライブ動画配信・アーカイブ動画配信を開始。セミナー当日に会場へ足を運ぶことが難しい方でも、セミナーに参加できるようにしました。また、オンライン化を進めていたことで、2020年3月 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う施設休館・セミナーのオンライン化についてもスムーズに対応することができました。

広報戦略の策定と実施 PUBLICITY STRATEGY

VISIONの見える化と、ブランディング

「全国で一番信頼され、感動・応援される行政サービスの先進モデルになる」ことを目指して、新たな広報戦略を策定、広報ツール（Webサイト、パンフレット、ポスター）も全て見直し、広報展開を図りました。

新しく制作したロゴマーク



すべての求職者へ向けてのサービスを展開していることを周知するためのポスター



「全国で一番信頼され、感動・応援される行政サービスの先進モデルになる」宣言と共に打ち出した集合写真



2018年度には前年度の運営を振り返り、改めて大阪府がめざすビジョンを踏まえた上で、スタッフ全員（アクティブカウンセラー・チャレンジカウンセラー・心理カウンセラー・職場体験開拓支援員、セミナー担当スタッフ、大阪府地域若者サポートステーションスタッフ、受付スタッフ）が次年度の体制やしくみの理想形を描き、一人ひとりがミッションやビジョンに共感・納得した状態で働く体制づくりをおこなうために実施しました。

/ はたらく学校文化祭 (年1回開催)



学校の教科になぞらえた「働くための授業」として特別企画・講師で展開するセミナー「はたらく学校」シリーズを実施。毎年1回、終日または複数日程に渡り、様々な分野の第一線で活躍するプロフェッショナルをお招きして授業をおこなうイベント「はたらく学校文化祭」を開催。期間中、毎年掲げるテーマ・ターゲットに合わせた複数のセミナーを実施し、就労意欲を促進。同時期に実施する職場体験やマッチング会などへの誘導も行い、参加者の就職決定へと繋がりました。



Vol.1 Life is Beautiful (2017年度)

女性の就業意欲促進や活躍推進、女性求職者と企業をつなぐことを目的に、理想の働き方やライフスタイルを考えるセミナーや、美容の体験型セミナーなどを実施し、潜在求職者の掘り起こしと、若年無業女性の就業意欲促進を図りました。入退場自由、保育サービス・授乳・おむつ替えスペースなど、参加のための環境整備も実施しました。



Vol.2 READY to START (2018年度)

現代の情報過多社会において、資本力のある民間企業による情報が検索エンジン等の上位を占める中で、「本当に求職者のためとなる情報提供」をおこなうべく実施。様々な分野の第一線で活躍する方をゲストにお招きし、自分にとって必要な情報の掴み方・自分の在り方や働き方を醸成するための思考法について、各専門分野の視点ならではのヒントを伝えていただきました。また、一部セミナーでは、Web視聴の対応を開始しました。



Vol.3 サ・ダイバーシティ (2019年度)

すべての方を対象に「サ・ダイバーシティ」というテーマを掲げ、働く上での多様な価値観や悩みにフォーカスしたコンテンツを実施。求職活動や働くうえで活かすためのヒントをお伝えしました。アフターコンテンツとして、キャリアカウンセリングやスキルアップセミナー、企業とのマッチング会など、求職活動におけるサポートを用意。参加者それぞれにとって働きやすい職場との出会いを見つけていただき、ミスマッチ・早期離職防止を狙いました。

開催したセミナー (一部抜粋)

- ・人気ビューティー系 YouTuber 佐々木あさひのメイクレッスン
- ・もしも世界から「就活」がなくなったら
- ・コトバの達人たち主催悩める職歴書、添削します。
- ・したたかに生きるオンナのワークハック & ライフハック
- ・あなたもわたしもマイノリティ! チガイと生きる
- ・はたらく前に知っておきたい暮らしに役立つ「お金」の話



Twitter等で、一般の方から様々な反響をいただきました。

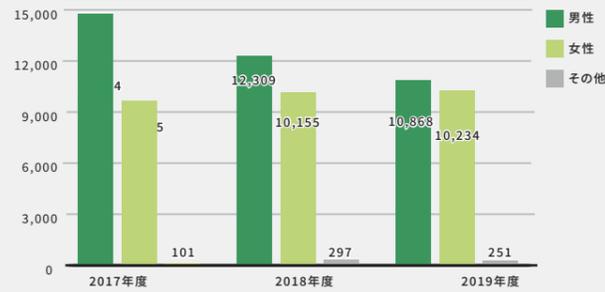


成果 OUTCOME

年齢別（単位：人）

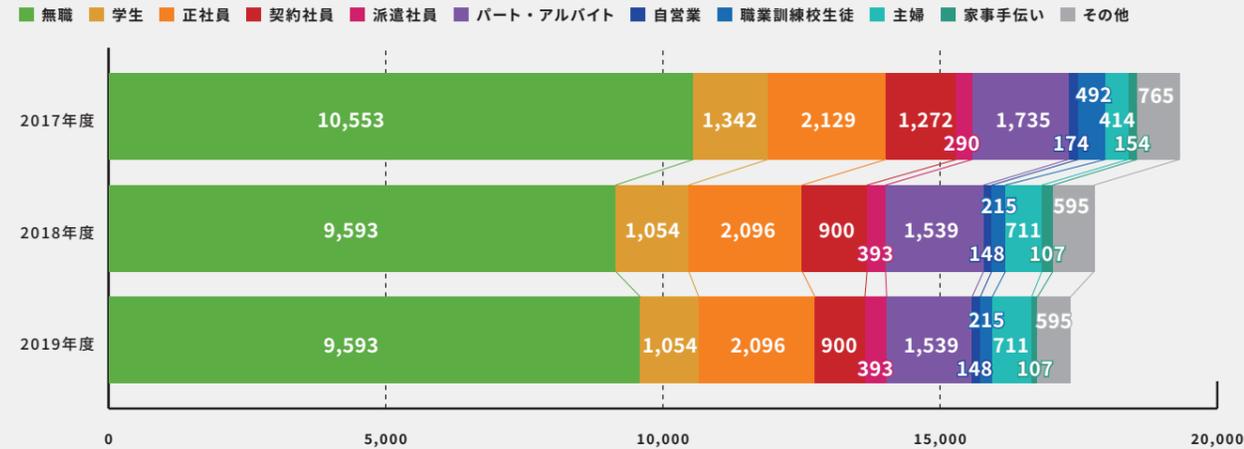


性別（単位：人）



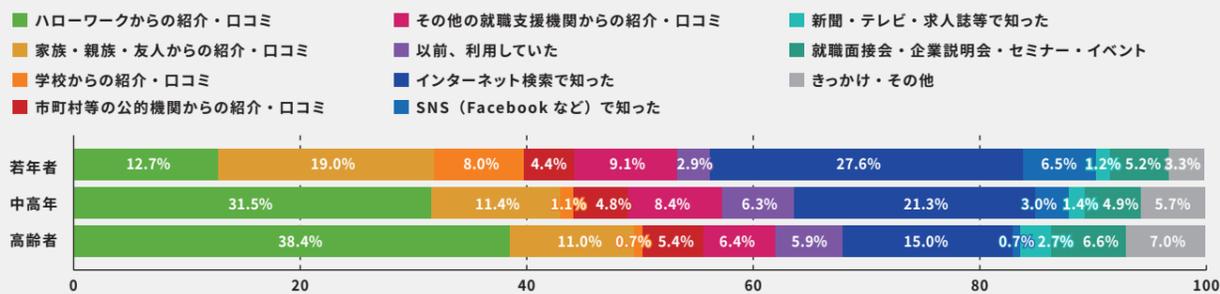
利用者数合計は、2017年度が24,500人、2018年度が22,761人、2019年度が21,353人と、雇用環境が回復基調にあったことから、利用者数は減少傾向です。

状況別（単位：人）



- ・2017年度～2019年度のいずれにおいても、無業状態の方が利用者の大多数を占めています。
- ・在職中の利用者については、3年間ともに16～17%の割合を占めており、転職のニーズは一定変動がないように思われます。
- ・「主婦」の利用は、穏やかではあるが増加傾向。要因としては、女性向けのイベントや、「働くママ応援コーナー」の外部におけるセミナーの実施、広報への注力の成果と予想されます。
- ・一方で、「学生」「契約社員」「職業訓練校生徒」「その他」については減少傾向。

年齢層別登録経路（2018年度）



ハローワークコーナーとの連携

ハローワーク大阪東が定例開催している「雇用保険受給説明会」にてOSAKAしごとフィールドのサービス案内やセミナーの告知をおこないました。説明会では、OSAKAしごとフィールドのパンフレットや、セミナーカレンダーチラシを配布し、おすすめのセミナーも具体的に紹介することで、新規登録へ繋がりました。

性別（単位：人）



3年間OSAKAしごとフィールドを運営しての総括

「就職活動」や「働くこと」に悩みを抱えるすべての方に向けての就業支援と課題解決に向けて生まれたOSAKAしごとフィールド。2017年度のリニューアルオープン時に掲げたスローガンは「全国で一番信頼される就業・人材確保支援サービスをめざして」です。全てにおいて、このスローガンが方位磁針となり、歩んできた3年間でした。その中には数値では表現されない、皆さまに届けたいシーンがあります。

セミナー参加者から「これまでずっと書類で落ちていたのに、教えられたことを心がけたら通りました!」と連絡があったこと。たくさんの行政や他地域の就業支援施設の受託事業者からの視察依頼を受けたこと。東京都や、山口県、北海道の方からも「OSAKAしごとフィールドさんのような場所はありますか?」と問合せを受けたこと。製造業の魅力発信記事からしごとフィールドを知り、「はたらく学校 技術」のセミナー受講後に、「私もものづくり業界に挑戦します!」と講師と握手を交わしていた女性がいたこと。「はたらく学校」の講師より「OSAKAしごとフィールドは本当にすごいことをしている、本に書ける」と、称賛いただいたこと。LGBTに関する取り組みを新聞で見た他府県の方から「当事者です。生きる勇気をもらいました。仕事がうまくいかない今、頑張ってみようと思えました」とメールをいただいたこと。「就活ピアガーデン」の終了後、「就活をはじめて楽しいと思いました!」と雨の中走って伝えに来てくれた学生がいたこと。就活・働くことを困難に感じている方向けセミナー「はたらくコソノート」で「働けるのが楽しみになります」とアンケートに書かれていたこと。キャリアカウンセリングを通して就職決定し、報告のため来館した方へ、スタッフも周囲の求職者も共に喜び、拍手を贈ったこと。

ほんの一例ですが、年間目標として設定された新規登録14,000人や就職決定8,000人のひとつひとつに、ストーリーが生まれることに価値を感じます。

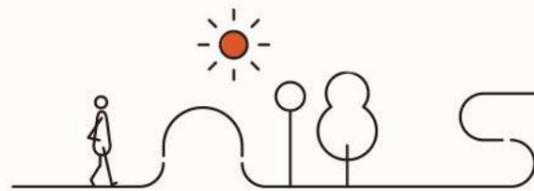
多くの方が就職活動に対して明るいイメージを持っていなかったり、多くのメディアで働くことに関する暗いニュースが流れる昨今ですが、OSAKAしごとフィールドは、企業と人との出会いや、就職活動や働くことに希望を生み出す拠点でありたい。引き続き一丸となって、政策課題解決に向けて、そして「全国で一番信頼される就業・人材確保支援サービス」の実現に向けて、次年度へバトンをお渡ししました。

大阪府地域若者サポートステーション

期間 : 2015.4～現在
テーマ : 若者就労支援
パートナー : 厚生労働省

働くこと そうだんじょ

大阪府地域若者サポートステーション



概要 OVERVIEW

NPO法人HELLOlifeは、厚生労働省からの委託を受け「大阪府地域若者サポートステーション(サポステ)」を運営しています。働くことについての様々な悩みを抱える15歳～39歳までの若者が就労に向かえるよう、「キャリアカウンセリング」「セミナー」「職場体験」などの支援をおこなっています。

また「地域若者サポートステーション」では、関連機関や、企業、地方自治体と協働した支援体制を強化しています。サポートステーションの支援が必要な若年無業者一人ひとりの状況に合わせた就労プログラムの提供、職場体験の受け入れ先企業の開拓、地域資源を活用した支援メニューの開発、他の支援機関との関係構築等を進めています。同時に、高校等を対象に高校中退者に対してのアウトリーチ型の就労支援などの切れ目ない支援体制も実施しています。

背景 BACKGROUND

15～39歳で、就労しておらず、家事も通学もしていない若年無業者の数は、約74万人と高止まりで推移しており、加えて就職氷河期に学校を卒業・退学した無業者の滞留が顕著で、これらの者を含む40代前半までの無業者数の推計は100万人にも達しています。若年無業者等の就労を支援することは、本人の自立の可能性を広げるだけでなく、困窮状態に陥るリスクを未然に防止し、地域社会の担い手を増やすために重要です。若者を就労につなげるうえでの課題は多岐に渡っており、社会人として必要な基礎的な能力の養成や、就職活動を開始するにあたって必要な基礎知識・ノウハウの付与、第一歩を踏み出すための体験機会の提供などをおこなうことで、課題解決を図っていくことが必要です。

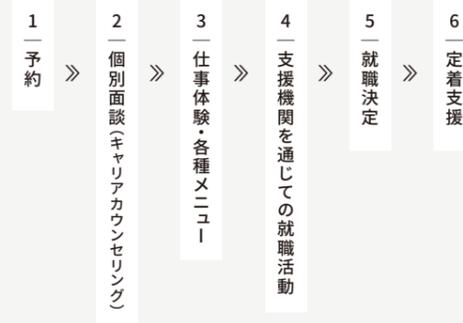


プログラム概要 PROGRAM OVERVIEW

大阪府地域若者サポートステーションでは、15～39歳の働く事に悩みをもつ若者を対象に、丁寧なカウンセリングを行い、一緒に考えながら就職までの道筋をサポートしています。就活準備講座やボランティア体験、企業での職場体験や適性検査など様々なメニューも用意しています。

※2018年度は、大阪府地域若者サポートステーションは「就職氷河期無業者総合サポートプログラム」のモデル事業実施拠点として、40～44歳の就職支援もおこないました。

利用フロー



キャリアカウンセリング

個々に合わせた就職活動計画を作成し、自己理解・仕事理解・機会創出・応募準備・面接対策といったステップを本人と確認しながら伴走していきます。仕事理解や応募準備をする中で、カウンセラーと一緒に求人検索をしたり、実際に求人票を見ながらその仕事の説明をしたりといった、ハローワークを活用した実践的な支援を行います。

職場体験

担当カウンセラーと相談をしながら、希望や状況に合わせて様々な仕事を体験することができます。仕事の場の空気を肌で感じたり、実際に作業を体験してみて、自分にできるかどうか確かめたりする機会になります。採用活動中の体験先であれば、体験期間終了後に応募することもできるので、協力企業からもミスマッチが減らせるプログラムであると評価をいただいています。

セミナー

仕事体験や就職の前に自信をつけたいと考える方向けに、少人数の自己理解ワークショップや、職業理解セミナー、軽作業体験セミナーなどさまざまなセミナーを開発・開催しています。

職場体験メニュー(例)

- 若者に理解ある町工場での製造補助
- 丁寧に技術を教えてくれる現場施工補助
- 落語寄席でのチケットもぎりや事務作業補助
- 物流倉庫での段ボールケース組み立てや軽作業
- 配達トラックの助手席に乗って同行・作業補助
- 鉄道の構内や車両内外の清掃作業
- 究極のカレーを作るお店での調理補助や接客体験
- 感謝されることの嬉しさが学べる介護福祉体験
- ネットで大人気の製品を作る工場での製造補助
- 地元で愛されるパン屋さんでの製造・接客体験 など

プログラム

/おしごとゼミナール



今までの人生を振り返り、それをお互い共有することで、自分の価値観に気づいていくことができるセミナー。自己紹介、自分の振り返り、振り返り内容のシェア等を実施しました。

実施結果 2017年度:12回
2018年度:11回
2019年度:10回

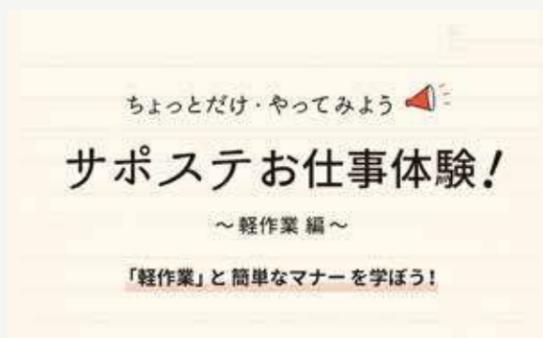
/発達凸凹サロン



発達凸凹のある方が元気に長く働き続けるための仲間やヒントと出会えるプログラム。発達凸凹の自覚がある方が集まり、色々なチェックシートやワークショップを通じて、自分自身の凸凹理解、他の人・会社への伝え方、日々の生活や職場コミュニケーションでのコツについて同じ立場から皆で話し合いました。

実施結果 2017年度:7回
2018年度:11回
2019年度:8回

/軽作業ワーク



軽作業は、体力に自信のない方や女性に人気のある物流、工場、作業場、倉庫などで行うことが多く、パソコンや電話対応が出来なくても丁寧な作業ができる方ならできる仕事です。軽作業の体験、挨拶や簡単なマナーについての座学、フィードバックなどを実施しました。

実施結果 2017年度:3回
2018年度:10回
2019年度:8回

/職業理解セミナー



どんな業界や職種があり、それはどんな仕事なのか。イラストや写真を見ながら、業界や職種の理解を深めました。

実施結果 2017年度:2回
2018年度:10回
2019年度:9回

など

/職場体験先のマッチングイベント「えらぶ就活」「あんしん就活」



大阪府地域若者サポートステーションでおこなっている職場体験プログラムは、希望者と受け入れ企業を個別にマッチングさせるものです。求職者に実際の職場を見て体感してもらうとともに、丁寧な事前カウンセリングと体験実施中・実施後のフォローをおこなうことでミスマッチを減らし、定着率の向上を図っています。

そのサポステで培った職場体験プログラムの成果をOSAKAしごとフィールド全体に広げるため、大阪府・一般社団法人大阪労働協会と合同で企画・実施したのが「面接だけじゃない、職場体験から就職できる就活マッチングイベント『えらぶ就活』シリーズ」です。

「えらぶ就活」は職場体験を受け入れていただける企業数社と、実際の職場を見てから働く場所を決めたい求職者が集まって、会社や仕事について気軽に話ができる合同説明会形式のプログラム。冒頭には企業担当者と求職者が混じっておこなうアイスブレイクを取り入れ緊張をほぐし、ざっくばらんな空気の中、さまざまな業種・業界の企業担当者との交流を通じて職場体験先を選ぶことができます。マッチング後はサポステでおこなっている職場体験プログラムと同様に、コーディネーターが体験初日・最終日に体験先へ同行し、日報・評価票などのツールを用いて実地での振り返りもおこないます。

サポステに加えて、OSAKAしごとフィールドの利用者や、関西一円の各大学からもエントリーがあり、より多くの求職者・企業に職場体験プログラムの良さを実感していただくことができました。2017年度中に3回開催（うち1回は1日職場体験・見学のみ）し、延べ69人の求職者と、延べ34社の企業にご参加いただきました。

企業と出会うマッチング交流会の前には、就活を一人ですすめるのが苦手な求職者を対象に3日間の研修期間（第1回、第2回のみ）を設けました。ここではハローライフが持つファンリテーションのノウハウを活用。基本的なマナーを身につけるだけでなく、個人・グループワークを通して自らの凸凹を見つけて整理してもらい、ありのままの自分を企業に伝えるためにエントリーシートにまとめるとともに、一緒に就活する仲間づくりの効果をねらいました。

その結果、シリーズを通して20人以上が就職、うち10人は職場体験先・見学先に就職することができました。2018年度・2019年度はさらなる参加者層の拡大を目指し、研修期間を1日に凝縮・開催回数を増やし「あんしん就活」としてリニューアル。「一人でもくもくと作業ができる」仕事を集めるなど、テーマを設けた回も実施しました。本イベントの趣旨を理解して受け入れていただける協力企業の開拓・企画推進を、大阪府及び一般社団法人大阪労働協会との深い連携のもと進めたプログラムでした。

実施結果 2017年度 実施回数:3回 参加者: 69名 参画企業:34社
2018年度 実施回数:6回 参加者:127名 参画企業:34社
2019年度 実施回数:4回 参加者:109名 参画企業:31社

成果 OUTCOME

- 2017年度 新規利用者数:226名 就職決定者数:138名
 - 2018年度 新規利用者数:219名 就職決定者数: 96名
 - 2019年度 新規利用者数:220名 就職決定者数:143名
- 受託期間中の総就職決定者数:601名（2015年4月1日～2019年3月31日）

働きたい！ワカモノ人生相談所 in 奈良 奈良若者サポートステーション

期間 : 2015.9～現在
 テーマ : 若者就業支援
 パートナー : 厚生労働省、奈良県

働きたい！ワカモノ

人生相談所 in Nara



概要 OVERVIEW

2015年11月に奈良県に住む若年無業者の職業的自立を支援するための取り組みとして、「働きたい！ワカモノ人生相談所 in 奈良」を奈良県に開設しました。キャリアカウンセラーや臨床心理士、社会人や企業・市民団体等の様々な知識や技術・人生経験をもつ、奈良にゆかりのある“人生相談員”による相談支援をベースとして展開しています。また、若年無業者の働くことにまつわるイベントやセミナー、企業での職場見学や職場体験等の体験メニューを展開しながら、15～39歳の「働く」ことに悩むワカモノをサポートし、新たな就労支援モデルの構築を行っています。2016年4月からは厚生労働省が実施する地域若者サポートステーション事業へ移行し、「奈良若者サポートステーション」としてリニューアルしました。



背景 BACKGROUND

奈良県における若年無業者（15～34歳の無業者で家事も通学もしていない者のうち、就業を希望しているが求職活動をしていない者及び、就業を希望していない者）は、約8,300人いると言われています。（H24就業構造基本調査による推計値）その数は全国8番目の高さとなっており、年々、増加傾向にあります。若年無業者が増加し続ければ、職業的自立をする若者が減少し、地域社会を支える未来の担い手が失われていくことへとつながります。また、県内には就労できない様々な課題を持っている若年無業者に対して、職業的自立を支援できる団体が少ないという課題を抱えています。そこで、弊社ではこれまで取り組んできた若者就労支援における研究や実践をもとに、奈良県に新たな若者就労サポート機関を開設しました。



実施概要 OVERVIEW

若者向けプログラム

/ 就職プログラムの実施

【「働くこと」に悩むワカモノ】向けプログラム「ツナガリ就活 in 奈良」を実施しました。若者と企業をつなぐコーディネーターとともに、3日間の社会人基礎力養成講座と3週間の企業での職場体験を受け、その後、若者と企業の間でマッチングが成功した場合は、そのまま企業へエスカレーター式に採用される就職プログラムです。

/ まちの資源を活用した体験プログラム

若者を応援する地域の様々な方に協力いただきながら、ボランティア体験・職場体験プログラムを実施しています。まちを支える人生の先輩たちとの出会いを通じて、多様な生き方を知ることができます。

わたしのマチオモイ帖 設営ボランティア



町を思う気持ちを全国のクリエイターが小冊子や映像で伝える展覧会「わたしのマチオモイ帖2017奈良展」の運営ボランティアに参加しました。人生相談員の山本あつしさんが運営に携わっていることから、ボランティア体験の機会をいただきました。ボランティア体験当日は、机の搬入や、都道府県ごとの作品を丁寧に並べていく作業に取り組みました。地域の様々な方が参加しており、世代や立場、経験も全く違う方々と交流を回りながら会場を設営しました。最初から最後まで和やかな体験となりました。

浄教寺 法燈会 ボランティア



三条通りにあるお寺「浄教寺」さんの行事「法燈会」のボランティアに参加しました。普段からお寺のお手伝いをされている役員さんに教えていただきながら、カップ内のろうそくの点灯準備と誘導、点灯後の片付けをしました。点灯前には門前でおつとめをして、鐘を合図に点灯。その後、門の辺りで、三条通りを行きかう人たちに声をかけて法燈会にお参りしてもらうように案内しました。一晩で1000人を超える人の参加がありました。

おてらおやつクラブ 発送ボランティア



「おてらおやつクラブ」は、お寺にお供えられるさまざまな「おそなえ」を、経済的に困難な状況にあるご家庭へ「おすそわけ」する活動です。利用者スタッフで、7/24に開かれた「おてらおやつクラブ」発送作業のお手伝いをしました。まずはお勤めをした後、全国から届いたお菓子の賞味期限確認、箱の組み立て、計量、箱詰め、配布先のご家庭への手書きメッセージカード作成をしました。終了後には、参加者の方と残ったお菓子を囲んでおやつタイムとなりました。

就職プログラム「ツナガリ就活」



【「働くこと」に悩むワカモノ】向けプログラム「ツナガリ就活 in 奈良」を実施。3日間の社会人基礎力養成講座と3週間の企業での職場体験を受け、その後、若者と企業の間でマッチングが成功した場合は、そのまま企業へエスカレーター式に採用される就職プログラムです。

/プログラムの流れ

- STEP1 エントリー
- STEP2 ご面談・登録
- STEP3 「働くテクニック3days講座」の受講
- STEP4 企業との面談
- STEP5 職場体験スタート
- STEP6 採用決定

実施回数	2017年度	2018年度	2019年度
実施回数	3回	3回	3回
参画企業数	16社	12社	10社
参加者数	29名	32名	37名
就職者数	16名	15名	16名

参画企業
丸山繊維産業株式会社/株式会社フルックス/医療法人健和会/株式会社創造工舎/さくらバーガー/株式会社ニチイ学館/株式会社井上天極堂/株式会社JR西日本メンテック/日産工業株式会社/株式会社アクシス・クリエイト/Net建築工房/DRINK DRANK など

イベント

/サポステ合同企業説明会



奈良県内にある2箇所の若者サポートステーションが合同で開催する、合同企業説明会。一般的な説明会とは異なり、企業からの説明だけでなく、エントリーシートを利用した双方向コミュニケーションを取れる場作りをしています。

/目指せ!ものづくりマイスタープロジェクト



建設業・製造業の中でも優れた技能と経験を持つ「ものづくりマイスター」が、若者に向けて実技指導し、技能の継承や後継者の育成を行うプロジェクト。2019年度は、お寺の新築棟上げ現場の見学会を開催。大和西大寺の大工の棟梁 梅田宗春さんにお話を伺うなど、なかなか見る機会のない仕事を見学しました。

/あなたにピッタリハマる会社の選び方



人生相談所を通じて就職した若者と、採用した企業を招き、双方の視点からより良い仕事探しの形を考えるイベント。若者のMさんは、商店街でのボランティア体験に参加した際に、商店街内に店舗を構える株式会社鹿野さんと出会い、就職へ。彼女が就職を決めるまでの葛藤、企業が採用するに至った経緯や現在の働きぶりを聞き、参加者は勇気もらった様子でした。トーク後は、参加者同士で「自分にピッタリハマる会社の選び方」を探求するワークショップを実施。参加者の皆さんそれぞれが明日からの仕事探しにつながるヒントを見つけた時間となりました。

若者を応援したい人生相談員向けイベント

/働きたい!ワカモノ応援会議 in 奈良

奈良県における若年無業者(15~34歳)は約8,300人(2012年 就業構基本調査による推計値)と全国8番目の高さであり、その対策が求められています。人生相談所では、「働くこと」に悩むワカモノに対し、地域のさまざまなオトナが“人生相談員”として活躍することを推進するため、若者支援に関心がある方に向けたイベントを定期的実施しています。



2017年度

ひきこもり・若者支援でまちづくり～誰もが活躍できる藤里方式～
ゲスト:秋田県藤里町社会福祉協議会 会長 菊池 まゆみ氏

町民約4,000人のうち約100人もの人たちが引きこもりという実態が調査で明るみになり、「若者・ひきこもり支援」の取り組みがが全国から注目を集めた秋田県藤里町。「藤里方式」と呼ばれるその取り組みを牽引した菊池氏をお招きし、若者支援がまちづくりに繋がる可能性を探求しました。

※2019年度も実施を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止いたしました。

2018年度

困難を抱える子ども・若者を支える地域づくり
ゲスト:札幌市若者支援総合センター 館長 松田 孝氏

北海道札幌市では、そうした若者の困難を乗り越えるための体制として、全国に先駆けて「さっぽろ子ども・若者支援地域協議会」を立ち上げ、地域連携の仕組みづくりに取り組んでいます。札幌市における地域連携の中心を担う、松田氏を招き、若者を支えるために必要な地域におけるネットワークのあり方についてお話を伺いました。

3年間の成果 OUTCOME

年度	相談件数	新規登録者数	就職者数
2017年度	1218件	90名	45名
2018年度	1354件	100名	51名
2019年度	1373件	88名	66名

ボケない大阪 UIJターンプロジェクト

期間 : 2017.4.17~2018.3.31
 テーマ : 大阪へのUIJ促進・都市間移住のモデル構築
 パートナー : 大阪府



概要 OVERVIEW

「ボケない大阪UIJターンプロジェクト」は、2016年よりスタートした「ボケない大阪移住プロジェクト」の第二弾として、東京圏の方を対象に、いつもはボケている大阪の、まったくボケていない仕事・暮らしの魅力的な情報を届け、大阪へのUIJターン就職を促進するプロジェクトです。全国的に地方創生の取り組みが活発化する中、「都市部から自然豊かな地方へ」ではなく「都市部から都市部へ」の“都市間UIJターン”の実現を図ります。

背景 BACKGROUND

人口急減・超高齢化社会という大きな課題に対して、政府一体となって取り組んでいる施策「地方創生」の推進。その中でも今後の基本的視点の1つとして掲げられているのが「東京一極集中」の是正です。大阪から関東へは、毎年概ね1万人程度、特に働き盛りの20代・30代においては、7,000人以上が転出超過しており、この状況が続くと、人口減少が加速するだけではなく、大阪府内市場の急激な縮小により、競争力が低下するなど、経済基盤への影響なども懸念されます。ボケない大阪UIJターンプロジェクトでは、2016年度に引き続き、インパクトあるコミュニケーション広報戦略と移住希望者の意識を喚起するコンテンツ設計に取り組みました。



プログラム概要 PROGRAM OVERVIEW

企業情報の発信

/ 企業の求人掲載 (50社)

ボケない大阪UIJターンプロジェクトのWebサイト、企業の魅力発信Webサイトにて、大阪の企業50社の求人開拓・掲載を行いました。

掲載企業一部

有限会社シューズ・ミニッシュ、株式会社ナオミ、有限会社ANTRY (アントリー)、中央会計株式会社、株式会社ノーティスデザインカンパニー、平安伸銅工業株式会社、株式会社生田、株式会社encoichi、株式会社morondo、株式会社クリップオン・リレーションズ、街角企画株式会社、NPO法人ちゅうぶ (敬称略)



/ 「大阪企業ガイドブック」の発行

「大阪の暮らし」「大阪の企業」「移住者の声」など、大阪で働き暮らすの魅力を編集したガイドブックを制作。東京・関西圏の大学や就職支援機関へ約9,000部配布しました。

東京圏大学との連携

大阪府内企業への就職意欲喚起と就職活動のサポートを目的に「ボケない大阪 夏の就活集中講義」を専修大学、創価大学にて実施しました。



移住喚起・企業交流イベントの開催

「自分の名前前で働く～あなたと会社のいい関係のつくりかた～」
ボケない大阪UIJ ターンプロジェクト×TOKYO WORK DESIGN WEEK



働き方の祭典“TOKYO WORK DESIGN WEEK”とのコラボレーション企画を東京・渋谷にて開催。「自分の名前前で働く」をテーマに、個人に求められる姿勢やアクション、個人と会社との関係を考えてると同時に、「大阪で働く面白さ」について議論しました。

開催日時：2017年11月20(月) 19:30-21:45
場所：朝日新聞社メディアラボ(東京都渋谷区神宮前6丁目19-21)
ゲスト：羽瀨 彰博氏(Omsubi.inc 代表取締役社長)
柴田 史郎氏(面白法人カヤック 人事部長)
竹内 香予子氏(平安伸銅工業株式会社 代表取締役社長)
山本 祥馬氏(One panasonic:パナソニック株式会社)
峰松 加奈氏(木村石炭工業株式会社)

参加者数：58名

「ホンネで話せる夜の合説



ドリンク片手に採用企業の担当者と気軽に話せる合同企業説明会をハローライフにて開催しました。

開催日時：2017年10月25日(水)、10月26日(木)、11月29日(水)
出展企業：株式会社生田、株式会社encochi(uchimari)、株式会社morondo、平安伸銅工業株式会社、街角企画株式会社、株式会社クリップオン・リレーションズ、株式会社ナオミ、有限会社ANTRY、株式会社ノーティスデザインカンパニー(敬称略)
参加者数：合計約100名

反響

Twitterユーザーの「大阪企業ガイドブック」に関する投稿を機に、リツイートやインターネットニュースなどへの掲載が続きました。メディア掲載により、「ボケない大阪UIJターンプロジェクト」「企業の魅力発信WEBサイト」のアクセス数が増加。アクセス数増加に伴い、新規登録者数・求人エントリー数も増えました。

▼Together



▼ねとらぼ



▼ヤリコネニュース



成果 OUTCOME

プロジェクト登録者：約300名
就職決定者数：65名

The Work - Music Project -

期間 : 2014～現在
テーマ : オーケストラの新たな芸術価値創造、若者就労支援
パートナー : 日本センチュリー交響楽団

The Work Music Project

概要 OVERVIEW

日本センチュリー交響楽団と協働で、「働くこと」や「生きること」に悩みや迷いを抱えている若者を対象に、音楽創作を通じた就労支援プログラム「The Work -Music Project-」を実施し、1つの音楽作品を創り上げました。

参加者は、音楽づくりを通じてコミュニケーションや表現などを身につける「音楽創作ワークショップ」と、働き方や就労につながる「ハローライフワークショップ」を相互に体験。

就職率だけを目的とする対症療法的な支援ではなく、若者の潜在的な能力の発掘・向上を狙いとし、「仲間」として出会う楽団員との自然な触れ合いや自由な音楽創作などを通じて、日々の暮らしや働き方につながる創造性や社会性を獲得します。

背景 BACKGROUND

国の「文化芸術の振興に関する基本的な方針—文化芸術資源で未来をつくる—(第4次)」において、「教育、福祉、まちづくり、観光、産業等周辺領域への波及」「社会参加の機会をひらく社会包摂の機能」と明記されているように、「芸術のための芸術」から「社会のための芸術」へとシフトする中で、社会全体からのオーケストラへの要求は多様化しています。

2011年に大阪府から自立民営化した「日本センチュリー交響楽団」は、音楽鑑賞を目的とした一部の聴衆のためだけでなく、市民・社会から必要とされるオーケストラを目指し、新たな運営を模索しています。協働プロジェクトを通じて、社会における「オーケストラの新たな価値」を創出すると共に、就労支援の方法やあり方の新たなモデルとなることを目指します。



2017年度実施プログラム PROGRAM

実施期間: 2017年4月25日(火)～8月28日(月)
参加人数: 約15名(楽団員やスタッフ含む)

音楽創作ワークショップ produced by 日本センチュリー交響楽団

キッチン用品や配管用品など音の出るものすべてが楽器と捉え、音の連想ゲームや実験などを行いながら、一人ひとりのアイデアや発想を活かした自由な音楽創作に取り組みます。また、演奏会見学では、プロとしてステージに立つ楽団員の様子を間近で見ながら、仕事・働くことに対する姿勢やマナーなどを学びます。

/ 第2回音楽創作ワークショップ(参加者が記録した活動ブログより抜粋) 2017/05/02



今日行ったこと

- ・前回の民族のような音楽を聴かせていただいて、聴き入った。
- ・レゴブロックを使い表現したいものを作り、それをもとに2～3人で色んなものを使って音楽を作った。
- ・レゴブロックを一人ひとり好きなところに置いて音符(楽譜)を作った。

1日を終えて(感想など)

The Workの方々と一緒に作った音を1つ1つ合わせて、世界に1つであろう音楽を創り上げることが楽しくて、これからも発表に向けて、続けていきたいと思っています。

今日のあなたの「音」は?

3人チームの「音」が好きで、紫の乗り物が早く走り抜けていく感じで、低い音から高い音に変化してくイメージが聴き入りました。もう一度近くで聴きたいです。



ハローライフワークショップ produced by ハローライフ

音楽創作ワークショップと連動して、The Work の仲間(参加者である若者、オーケストラ楽団員、作曲家で、日本センチュリー楽団のコミュニティプログラムディレクターの野村誠さん、スタッフ)と共に、自分や仲間の生き方・働き方・考え方を学び、発見するワークショップを展開します。

/ 第5回ハローライフワークショップ(参加者の記録した活動ブログより抜粋) 2017/08/09



今日行ったこと

- ・久しぶりで集まったので、会っていない間の近況を報告
- ・「The Work2017のあゆみ」(年表をつかって...)

4月からのThe Workの活動を振り返る。ハロー&音楽創作ワークショップの写真や動画を見ながら、スタッフさんによる日誌の読み上げで、活動内容を思い出したり、参加できなかった時のことを知ったり...。その後、The Workや仕事・プライベートでの出来事をふせんに書き出し年表に貼り、それをもとに曲線で生活の中のプラス・マイナスの状態を浮き彫りにしてみる。振り返ることで、これからどんな曲線を描きたいかも考えてみる。コンサート本番をどう迎えたいか?その後、どうやっていきたいか。

1日を終えて(感想など)

久しぶりのワークショップ、しかも定期演奏会に行けなかったのも、ずいぶん間があいてしまいました。だもんで、緊張しながらワークショップが始まりました。明日もみなさんに出会えるので、明日はもっとなごやかな雰囲気で行けるかな、と思います。

今日のあなたの「感情」は?

「ちょっと安心。」付箋を書いて貼ることで、落ち込んでたり、イヤなことがあっても、楽しいこと、気持ちが上がることがわかった。なんだかんだ言ってもバランス取ろうと自分なりに頑張ってるんだなと思った。

作品 OUTCOME

作品:チェロ協奏曲「ミワモキホアブポグンカマネ」



参加者と楽団員から生まれたアイデアをもとに、作曲家で日本センチュリー交響楽団のコミュニティプログラムディレクターの野村誠さんがチェロ協奏曲「ミワモキホアブポグンカマネ」を作曲し、昨年8月に首席チェロ奏者の北口大輔さんのリサイタルにて初演されました。今後、この作品が様々な機会演奏され、参加した若者たちのメッセージやThe Workの取り組みが作品を通して広がるようにと、楽譜を公開することになりました。

演奏の検討やパート譜、演奏音源を希望される方は楽団コミュニティプログラム担当(豊中市立文化芸術センター内 Tel:06-6864-3901)までお問合せください。

- 第1楽章「ミワモキホ」
- 第2楽章「アブポ」
- 第3楽章「グン」
- 第4楽章「カマネ」

2018年2月は、独奏チェロ、ピアノ、ヴァイオリン、ヴィオラ、コントラバス、トロンボーン1、トロンボーン2の7重奏で世界初演。2018年8月には、独奏チェロ&ピアノ版も制作、演奏されました。

※楽譜は活動ブログ(<http://the-work.jp/blog/>)からご覧いただけます。

2018年度実施プログラム PROGRAM



大阪府四條畷市「府営清滝住宅(清滝団地)」にて取り組む住宅つき就労支援プログラム「MODEL HOUSE」のコミュニティプログラムの一環として、団地に入居する若者や住民と共に、全7回の音楽プログラムを開催。音楽を通じて入居者同士の交流を深めながら「清滝団地の歌」を創作しました。参加者が見つけた歌詞には、清滝団地での暮らしで感じたことや地域の歴史などが盛り込まれており、団地の伝統行事である「盆踊り」でも踊れるような曲調・振り付けとなっています。

参加者数:全50名程度

受賞 PRIZE



「Classical:NEXT 2018 Innovation Award」という、世界のクラシック音楽界に新しい方向性や社会へのインパクトを持つ活動を対象としたイノベーションアワードに、music project「The Work」がノミネートされました。2018年は「オーケストラ」をテーマに28のプロジェクトが選出され、うち2つが日本からのプロジェクトでした。

CHASHITSU

Japanese Tea & Coffee

期間 :2013.05.12~ CHASHITSU for worker
2016.07.09~ 現在 CHASHITSU Japanese Tea & Coffee
テーマ :飲食、雇用創出、中間的就労の場づくり



概要 OVERVIEW

仕事ライブラリー「ハローライフ」1階に構える、国産の茶葉をかけあわせたコーヒーやおはぎバーガーなどを売りにする日本茶スタンドです。独自のドリンクやスイーツを、森のような素晴らしいパークビューでお楽しみいただけます。

背景 BACKGROUND

CHASHITSUは、あらゆる人の雇用をうむ場所になることを目標としています。ここでずっと働き続けることができる人が生まれることはもちろん、この場所がひとつのキャリアアップの機会となり、社会で活躍できる人が生まれるよう「ハローライフ」や「CHASHITSU factory」とも密接な関係を持っています。また、日本ならではの丁寧なおもてなしや食材の力で、「働く」を応援します。



概要

OVERVIEW

商品開発

「日本茶×コーヒー」の創作ドリンク

- ・ほうじ香るコーヒーソーダ:グレープフルーツが爽やかな大人向けソーダ。
- ・抹茶カフェフラペチー:20代女性向けに大幅リニューアルしました。生クリームをトッピングした抹茶ベースのフラペに、コーヒーシロップが入ったチューブを添えることで、華やかな見た目でありつつ、味わいの変化も楽しめる商品に。

ニッポンのエナジードリンク「MATCHA CHARGE」シリーズ

伝統的な抹茶よりもカジュアルで、甘味処のグリーンティーよりも本格派なニッポンのエナジードリンクシリーズを発売。

トレンドを抑えたドリンク

- ・タビオカ日本茶ラテ(ほうじ茶・抹茶)
- ・煎茶スカッシュ:レモンジュレを沈めた煎茶ソーダにみずみずしいフルーツをダイブさせたフルーツインティー。

おはぎバーガー 期間限定 新フレーバー

- ・和栗:看板商品のおはぎバーガーには、まるでモンブランの生洋菓子感と和菓子らしさを絶妙なバランスで実現させたが仲間入りしました。
- ・柚子:柚子とホワイトチョコのバランスが絶妙なおはぎ。
- ・南瓜おしるこ:「おはぎバーガー南瓜」をイメージしたおしるこ。ホットでもアイスでもお楽しみいただけます。



販路拡大施策



2017年度 「おはぎバーガー」の日持ち期間を再検証し、2日から3日の日持ちを実現。

2018年度 おはぎバーガーをリブランディング。ギフトボックスの制作・オンラインショップを開設し、通販を開始しました。

2019年度 UberEatsによるサービス開始。母の日・父の日・お中元など、ギフト向けキャンペーンを展開。

ワークショップの実施

2018年1月8日 生花ワークショップ

開店時からお花を生けてくださっている小池創勝氏(草月流)をお招きし、2時間のワークショップを開催しました。

2019年1月18日19日 ほうじ茶テイスティングワークショップ

五感で味わっていただくために、ワイングラスにお淹れしている香り高い「特上ほうじ」。お客様ご自身で淹れていただく特上ほうじと、ペットボトルで販売されているほうじ茶をワイングラスで飲み比べ、それぞれの特徴を感じていただくワークショップを開催しました。



メディア掲載

「SAVVY5月号(2017/3/23発売)」の表紙を飾り、春には主に関西圏を対象とした様々な雑誌のカフェ特集・カフェガイドへの掲載。「料理通信 8月号(2017/7/1発売)」といった飲食業界誌にも掲載いただき、業界の方にもご来店いただく機会が増えました。2019年度には、「日本茶×コーヒー」が次に流行するドリンクとして注目いただき、全国放送のテレビ番組に取り上げて頂きました。

- ・2017/03/23 SAVVY 5月号表紙
- ・2017/07/01 料理通信8月号「お茶とお菓子」
- ・2017/12/12 MBSちちんぷいぷい「撮っておきスイーツ」
- ・2019/04/05 GLITTER 5月号「次なるブーム・進化系ティー」
- ・2019/05/31 エルマガジン社 ムック本「日帰り朝さんぼ 関西版」
- ・2019/11/07 テレビ東京WBS「NEXT タビオカドリンク」
- ・2020/01/14 TBSテレビ「マツコの知らない世界ーおはぎの世界ー」
- ・2019/10/31 エルマガジン社 ムック本「大阪 神戸 京都 お茶とお菓子」 など

イベント出店

- ・2017/11/12 北加賀屋 みんなのうえん祭2017
- ・2017/11/4,5 茶源郷まつり
- ・2017/5/13,14 朝公園バラ祭2017
- ・2018/4/11~17 阪急百貨店へポップアップ出店
- ・2018/7/20~22 ジュエリーメーカー様にてウェルカムドリンク提供
- ・2018/11/12~18 大阪・萬福寺
- ・2018/11/28~12/2 近鉄百貨店「大茶会&Wa!菓子展」
- ・2019/07/19~21 ジュエリーメーカー様にてウェルカムドリンク提供
- ・2020/02/19~21 LUCUA就活デパートメント ゲン担ぎ自動販売機 出店 など



中間的就労支援「CHASHITSU factory」の実施

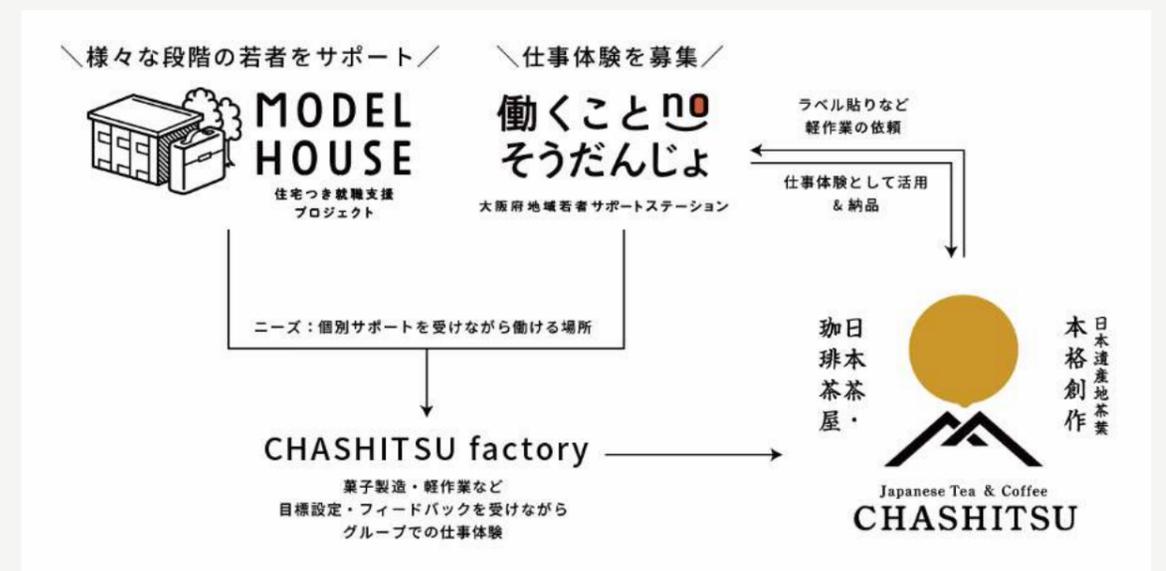
中間的就労支援プログラム「CHASHITSU factory」は「CHASHITSU Japanese Tea & Coffee」で販売する商品の製造過程において、さまざまな経験を積むことで、就労を目指す若者が必要なスキルや社会人基礎力を身に付ける工場(サポートプログラム)です。一人ひとりのニーズや適性に合わせた目標・サポート内容を設定し、およそ3ヶ月を1クールとして実施。スタッフや仲間と一緒に、就労に向けて少しずつステップアップしていきます。

2013年度、2014年度から参加している利用者のうち2名は、プログラムを通じて社内ですてップアップをしました。2013年にプログラムに参加したKさんは、2年間factoryで経験を積んだ後に、弊社の他部署にて相談員2年・施設運營業務2年を務め、利用者のサポートを行いました。2014年に参加されたSさんは、CHASHITSU 1Fの接客対応含め、CHASHITSUに関する幅広い業務を担当し、約5年間勤務されました。



2017年度は6名がプログラムに参加。週1,2日5~8時間からの無償インターンシップを行いました。参加者のうち2名は大阪府地域若者サポートステーションや、HELLOlifeでの面談を継続しており、2名は有償インターンシップとしてプログラムを継続中。うち1名はアルバイトへステップアップ。

/他プロジェクトとの連携体制



LOVE LOVE LOVE

期間 : 2017.09~11
 テーマ : 企業協働型 地域活動の仕組みづくり
 活動サポート: 大阪マラソン パートナー: スターバックス



概要 OVERVIEW

「まちのクリーンアップ」をテーマに、大阪市内のスターバックス5店舗を拠点に、11月の約1ヶ月間、2パターンの参加方法でLOVE LOVE LOVE PROJECTを実施しました。

1. LOVEクリーンアップイベント

11月の土曜日、大阪市内5地域において「ごみひろいイベント」を開催。ごみひろいのルートは、各店舗でお客様に実施した「きれいにしたい場所」のアンケート結果に合わせて決定しました。

2. LOVE月間

スターバックス5店舗にて、クリーンアップで使用するオリジナルごみぶくろを1ヶ月間無料配布。誰もが日常的にクリーンアップができる仕組みづくりに挑戦しました。



背景 BACKGROUND

第7回大阪マラソン「美しいまちと暮らしを支える」公式寄付先団体として選定された2017年、「若者がイキイキと働き、暮らすまちこそ“美しいまち”」という考え・想いを背景に、大阪マラソンの寄付金を活用し、地域活動プロジェクトを立ち上げました。協働企業先は、スターバックス コーヒー ジャパン株式会社。「地域・人・社会とのつながりを育みたい」という想いが重なり、「まちのクリーンアップ」をテーマに、LOVE LOVE LOVE PROJECTがスタート。

大阪市内のスターバックス全店舗が協力し、「地域活動拠点」となる仕組みづくりに挑戦。クリーンアップは地域の美化だけでなく、地域・人・社会のコミュニティ形成やつながりを育む機会創出としての役割があり、市民の自主的な地域活動の気運を高めることにつながります。



実施内容・成果 PROGRAM & OUTCOME

LOVEクリーンアップイベント

実施期間: 2017年11月04日、11日、25日 参加申込み人数: 171名 ※各回先着30名のところ、40名程度にまで増員

/ 第1回 新大阪 2017年11月4日(土) 10:00~11:00



実施店舗: 新大阪ニッセイビル店 (大阪市淀川区宮原3-4-30)
 参加人数: 31名
 回収したごみぶくろ: 約50袋

/ 第2回 梅田 2017年11月11日(土) 10:00~11:00



実施店舗: 大阪ガーデンシティ店 (大阪市北区梅田3-3-20 明治安田生命大阪ビル)
 参加人数: 33名
 回収したごみぶくろ: 約25袋

/ 第3回 難波 2017年11月25日(土) 10:00~11:00



実施店舗: なんば南海通店 (大阪市中央区難波千日前12-30 難波長和ビル)
 参加人数: 21名
 回収したごみぶくろ: 約20袋

/ 第4回 阿倍野 2017年11月11日(土) 10:00~11:00



実施店舗: あべのHoop店 (大阪市阿倍野区阿倍野筋1-2-30 あべのHoop)
 参加人数: 24名
 回収したごみぶくろ: 約40袋

※11/18(土)スターバックス コーヒー堺筋本町店での開催は雨天のため中止 ※参加人数にスタッフを含まない ※ごみぶくろ1袋あたり12.5L

/ 参加理由 (一部)

子どもと一緒に道路のごみを拾うことで、ポイ捨てをしてはいけないことを知ってほしい

今回の参加をきっかけに、またいろんなことにチャレンジしてみたい

ボランティアに興味はあるけど1人では行動にうつせなかった

人とのコミュニケーションの場やつながりがほしかった

ボランティア活動、社会貢献、清掃活動に興味がある

何も無い休日を有意義に過ごしたい

アンケートマップ

クリーンアップ開催店舗5店舗のコミュニティボードにて掲示。約200の声(シール)を集めることができました



フライヤー

大阪市内のスターバックス全店舗(約60店舗)にて配布



ポップ

クリーンアップ開催店舗5店舗にて掲示



ポスター

クリーンアップ開催店舗5店舗にて掲示



ごみぶくろ

ハートをモチーフとした不燃ごみ用・可燃ごみ用のオリジナルごみぶくろ。365日ハートを描き続けた故・平尾 徹さんのイラストを起用し、各2万袋制作。



社員研修



概要 OVERVIEW

弊社では、年に数回社員全員が揃って参加する社員研修を実施しています。2017～2019年では、計3回の研修を実施し、法人内の全チームが一同に介して社員研修を実施しました。

/ 年間スケジュール

4月1日 新年度社員研修

新年度のスタートに合わせて、法人のミッション・ビジョンを再確認し、事業部単位でのチームビルディングや年間の事業計画を考える社員研修を実施。各事業部が目指すビジョンを明確にするために「ミッションコーン」というツールを用いました。

8,9月 中間社員研修

新年度研修から4,5ヶ月を経てさまざまな変化が起きている各事業部の計画をチューニングする社員研修を実施。外部の有識者をお招きし、事業部単位での意見交換や計画の見直しを図りました。

1月 年間振り返り研修

各事業部を振り返り、今年度の成果を棚卸しするとともに、次年度へ活かすための年間振り返り社員研修を実施しました。



実施内容・成果 PROGRAM & OUTCOME

プロジェクト型の社員研修づくり

弊社の社員研修は、事業部を横断した社員研修プロジェクトチームを発足。事前に3回程度、事後に1回のミーティングを行い、社員研修の企画を行います。研修づくりのチームを結成することで、以下のような成果を目指しています。

① 効果的な社員研修の実施

社員研修をより効果的に実施するために、部署のメンバーが現場のニーズを汲み取りながら多角的な視点や意見を反映させた研修設計に関わります。また研修当日には、研修づくりのチームが研修に込めた思いを伝える役割を担います。

② 経営視点を養う

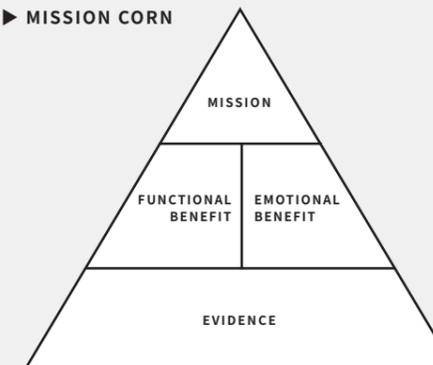
社員研修づくりの機会を通じて、普段見えていない法人全体を俯瞰して観察し分析する機会を持つことも大切にしています。研修づくりへの参加をきっかけに、経営視点を養うこと、そういった視点を持つことで、日々の業務での関係性や仕事の質やセルフリーダーシップの向上効果も期待されます。

「ミッションコーン」の制作

今回は、各チームが目指すビジョンを明確するために「ミッションコーン」の制作を進めました。「ミッションコーン」とは、自分たち(組織・チーム・プロジェクト)の目指す姿や提供する価値を定義した「ミッション」を分解し、三角形の図式にしたものを指します。三角形の一番底辺から「エビデンス」、中段に「ベネフィット(機能的ベネフィット・感情的ベネフィット)」、上段「ミッション」に順番に積み上げたものです。

(詳細: 並木裕太著「ミッションからはじめよう!」)

▶ MISSION CORN



▼施設「ハローライフ」を運営するチームのミッションコーン 2019年度版



メディア掲載(一部抜粋)

ハローライフ「コタツ就活EXPO2021」

- | | |
|-----------------------------------|------------------------------------------|
| 2020/02/13 読売新聞「コタツで就活 企業とホットな交流」 | 2020/02/21 読売新聞twitter コタツを囲んで学生と企業が交流図る |
| 2020/02/15 大阪日日新聞「こたつで企業と交流」 | 2020/02/22 読売新聞「就活の緊張 解けたかも」 |
| 2020/02/21 テレビ大阪「ぬくぬくこたつで就活」 | 2020/02/22 朝日新聞「それでも就活」 |

ハローライフ「内定写真館」

- 2019/11/11 朝日新聞デジタル「架空のフォトグラファー「内定トオル」が撮影する就活証明写真」。体験型撮影を通じて、すべての就活生に自信を。」
- 2019/11/12 WorkMaster「ハローライフ、就活生向け「内定写真館」開館」
- 2019/11/15 船場経済新聞「西区・就職支援施設で就活用写真 撮影は架空フォトグラファー「内定トオル」」
- 2019/11/17 大阪日日新聞「高品質“自撮り”実現 プロの機材で無人撮影」

住宅付き就職支援プロジェクト MODEL HOUSE

- | | |
|------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|
| 2017/04/03 NHKニュース おはよう日本
「若者の経済的自立支援 府営住宅無償提供」 | 2017/09/20 日本経済新聞「府営住宅 巢立ちの場」 |
| 2017/04/08 朝日新聞「府営住宅の空き室提供、若者の自立促進へ」 | 2017/12/21 DIAMOND online「家賃ゼロで就職支援付き！
高齢化する団地に若者を呼ぶ日本初の試み」 |
| 2017/04/14 読売新聞「定職ない若者の自立支援」 | 2018/01/10 共同通信など24社
「無職の若者に公営住宅提供、大阪自立目指し就労支援も」 |
| 2017/05/01 大阪日日新聞「公営住宅 無料で提供 全国初の若者就労支援」 | 2019/05/13 読売新聞「若者に空き室 就職応援 大阪府」 |
| 2017/05/22 テレビ大阪 ニュースリアル
「〇〇を活用！日本初の就職支援とは」 | 2019/05/18 大阪日日新聞「就労支援の官民連携プロジェクト」 |
| 2017/05/29 産経新聞「府営住宅空き室活用 若者の就職サポート」 | 2019/05/22 読売テレビ かんさい情報ネットten.
「“団地”でつなぐ若者と中小企業」 |
| 2017/08/03 読売テレビ 関西情報ネットten.
「全国初 仕事の無い若者を支援 府営“団地”を活用」 | 2019/10/21 日刊工業新聞
「ロスジェネ救う切り札か...住宅つき就職支援」の光明 |
| 2017/08/21 読売新聞 ズームアップ「社会と若者 つなぐ団地」 | 2019/11/12 日本経済新聞「氷河期世代 支援広がる」 |
| 2017/08/21 TOKYO MX「5時に夢中！」 | 2020/03/04 朝日新聞「職・住セット 若者支援」 |
| 2017/09/19 大阪日日新聞「空き部屋就労支援」成果 | |

お寺deハレバーレ!・お坊さん喫茶

- 2018/10/19 彼岸寺「【11/12-18】かけこめっ!就活や仕事の悩みをお寺で晴らせ!「お寺deハレバーレ!」
- 2018/10/25 朝日新聞
- 2019/01/11 華頂「仕事で悩む人の「かけこみ寺」に」
- 2018/11/13 Yahoo!ニュース、なんば経済新聞「南堀江の寺で「お坊さんによる人生相談」就業支援の一環で」
- 2018/11/14 MBS ちちんぷいぷい
- 2019/10/29 毎日新聞「お坊さんにモヤモヤ相談を 延べ24人待機 来月1〜3日・ルクア大阪」
- 2019/10/29 MBS ちちんぷいぷい「3日限定の「お坊さん喫茶」モヤモヤを聞いてくれる!？」
- 2019/11/01 MBS ミント!「大吉が見んと!商業施設の中でお坊さんに相談できるイベント!？」
- 2019/11/16 中外日報「大阪駅ビルでお坊さん喫茶 超宗派の若手僧侶が傾聴」
- 2019/11/18 NHK ニュースほっと関西「僧侶の力活用 企業が新サービス「お寺に新たな力を!厳しい経営状況背景に」
- 2019/12/16 NHK ニュースシブ5時
- 2020/01/15 寺社NOW!「求められる場所に出向くサテライトな傾聴」

OSAKAしごとフィールド

- | | |
|------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------|
| 2017/05/11 NHK大阪「就職支援 女性や若者の対応強化」 | 2017/10/25 スポニチ「『おたまじゃくし』“職業観”に関するトーク、
ポスターの制作秘話を披露『はたらく学校』開校式」 |
| 2017/05/12 毎日新聞「OSAKAしごとフィールド 一新
女性や若者への支援強化 中央区／大阪」 | 2017/10/26 大阪日日新聞「『はたらく学校』開校
教科なぞらえ『仕事力』学ぶ」 |
| 2017/05/12 大阪日日新聞「求職者支援を強化
改装の『しごとフィールド』」 | 2017/11/25 朝日新聞「LGBT働きやすく府が100人会議 当事者ら意見交換」 |
| 2017/05/12 関西ウォーカー「館内に一時保育施設が!
『OSAKAしごとフィールド』リニューアル」 | 2017/11/28 大阪日日新聞「『LGBT』への就労を支援 当事者の声聞き改善」 |
| 2017/05/13 産経新聞「求職者の悩み、きめ細かく支援
『OSAKAしごとフィールド』リニューアル」 | 2018/08/31 産経新聞「ピアガーデンで「就活」
リラックスして語り合い 40名参加 大阪府」 |
| 2017/05/13 朝日新聞「大阪」就業支援施設がリニューアル
全国初の保育所併設」 | 2018/08/31 NHK 関西ニュース「ピアガーデンで就活」 |
| 2017/05/14 日刊建設通信新聞社「『OSAKAしごとフィールド』が
リニューアルオープン関西ペイントが塗装体験イベントで協力」 | 2018/09/01 読売新聞「ビール片手に企業説明会」 |
| | 2019/08/20 大阪日日新聞「「一歩踏み出して」転職経験者、体験談熱く」 |

奈良若者サポートステーション

- | | |
|---------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|
| 2017/05/18 奈良新聞朝刊「若年無業者対象に就活」 | 2019/06/25 奈良県庁広報広聴課ナラプラス「職場体験から就職をめざす
「ツナガリ就活」プログラム」 |
| 2017/11/29 奈良新聞朝刊「『働く』を後押し
企業で事前見学／悩む若者の職場体験へ」 | 2020/02/26 奈良テレビ放送 ゆうドキッ!せんとくん通信「ツナガリ就活 in 奈良」 |

ボケない大阪UIJターンプロジェクト

- 2017/06/28 マーケティング会社年鑑2017
- 2018/01/28 Together ある就活ガイドブックのデザインに「怖い」「面白いやん」と賛否が分かれる
- 2018/01/28 Yahoo news「ボケない大阪へ、ツッコメ」地面に男女の肩から上が埋まり...大阪の就職ガイド表紙に賛否
- 2018/01/28 J-CAST NEWS「ボケない大阪へ、ツッコメ」地面に男女の肩から上が埋まり...大阪の就職ガイド表紙に賛否
- 2018/02/07 IRORIO ツッコメ大阪へ!府の奇抜な「企業ガイドブック」に込めた真面目な思い

The Work -music project-

- | | |
|-----------------------------|----------------------------------------|
| 2017/04/14 毎日新聞「作曲通じ人生に自信を」 | 2018/01/03 千葉日報社「プロと一緒に演奏会『「身も心も浮き浮き』」 |
|-----------------------------|----------------------------------------|

CHASHITSU Japanese Tea & Coffee

- | | |
|-----------------------------------------------------|----------------------------------------------|
| 2017/06/15 朝日放送 キニナリーノ!
「現代のお茶に千利休のような変革を!」 | 2018/06/01 日経MJトレンド「キューティーおはぎ」 |
| 2017/07/01 韓国 ASIANA航空 機内誌 8月号 | 2019/02/20 ライブ動画番組「WEEKLY OCHIAI」 |
| 2017/07/01 料理通信 8月号「+洋、で和文化をリビルド」 | 2019/02/28 Hanako4月号「やっぱりは、お茶が好き」 |
| 2017/11/12 集英社BAILA 12月号
「【西のウワサ】日本茶が楽しめるカフェ&喫茶」 | 2019/04/05 GLITTER 5月号「次なるブーム・進化系ティー」 |
| 2018/04/03 関西Walker「とれたて!百貨店NEWS」 | 2019/05/07 エルマガジン社 ムック本「日帰り 朝さんば 関西版」 |
| | 2019/11/11 テレビ東京ワールドビジネスサテライト「NEXT タビオカドリック」 |
| | 2019/11/19 エルマガジン社 ムック本「大阪 神戸 京都 お茶とお菓子」 |

活動計算書

2016～2019

(単位：円)

	2019年 H31.4.1～R2.3.31	2018年 H30.4.1～H31.3.31
経常収益		
1. 寄付金収入	6,462,872	0
2. 助成金収入	52,450,034	45,140,345
3. 事業収入	258,906,913	213,426,639
4. 雑収入	43,596	50,287
経常収益計	317,873,415	258,627,271
経常費用		
1. 事業費	264,742,570	218,531,546
2. 管理費	26,199,395	36,934,721
経常費用計	290,941,965	255,466,267
当期経常増減額	26,931,450	3,161,004
当期正味財産増加高	6,123,293	3,091,004
前期繰越正味財産	5,994,067	2,903,063
次期繰越正味財産	12,117,360	5,994,067

(単位：円)

	2017年 H29.4.1～H30.3.31	2016年 H28.4.1～H29.3.31
経常収益		
	6,304,108	6,662,379
	38,538,912	18,770,000
	248,140,349	142,383,242
	53,090	11,691
経常収益計	293,046,459	167,827,312
経常費用		
	243,142,920	127,265,069
	36,561,573	34,509,888
経常費用計	279,704,493	161,774,957
当期経常増減額	13,341,966	6,052,355
当期正味財産増加高	1,573,254	567,964
前期繰越正味財産	1,329,809	761,845
次期繰越正味財産	2,903,063	1,329,809